

第4次古賀市子ども読書活動推進計画

子ども読書プラン

いつも本をそばに
～本がはぐくむ 子どもの未来～



令和4(2022)年
古賀市教育委員会

はじめに

次の世代、未来の世代のために、何を為すべきか。

この国が少子化と超高齢化による人口減少社会に突入しているからこそ、新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態に直面しているからこそ、この原点に立ち返りたいと思います。

そのために第5次古賀市総合計画に掲げる「ひと育つ、こが育つ」を合言葉に、チルドレンファーストを徹底し、子どもの育ちと学びを支えます。



古賀市の子どもの読書活動においては、乳幼児のころからブックスタートを皮切りに、セカンドブックのほか、赤ちゃんや小さい子のおはなし会など多彩な読み聞かせ体験で本との出会いを積極的に行い、まず読書のきっかけをつくりながら、その先に読書の楽しさ・面白さ・知る喜びをさらに広めていきます。

幸い古賀市には、6つの地域文庫をはじめ、24もの読書ボランティア団体が活動しており、子どもの読書活動を力強く支援していただいていることは、古賀市が誇れる強みと言えます。

これに加えて、小・中学校での朝の読書活動や、高校生による読み聞かせ、大学による体験教室、あるいは保育所（園）・幼稚園等への市立図書館の蔵書の積極的な貸出など、多彩な取組を進めています。

これらの活動やそれを担う諸機関は互いに連携・交流することで、多様な人材が出会い、知識や経験が「交差」し「掛け算」が生まれ、「クロスオーバー」と言える効果が期待できます。

次世代の子どもの読書活動を支えるため、家庭・地域・保育所（園）・幼稚園・学校・行政・読書ボランティアなどが「クロスオーバー」して、共に創る＝「共創」で未来を拓いていきましょう。

令和4年10月

古賀市教育委員会
教育長 長谷川 清孝

目 次

1. 子ども読書活動の意義	3
2. 国内と古賀市の動き	3
3. 計画の期間・対象・位置づけ	4
4. 読書をとりにまく状況	5
5. アンケート結果から見る 子ども読書活動の現状と分析	7
6. これまでの成果と課題	10
7. 計画のテーマと基本目標	14
8. 取組内容	15
9. 進捗管理	24

《参考資料》

① 第4次古賀市子ども読書活動推進計画 体系図	26
② 第4次古賀市子ども読書活動推進計画 取組内容・展開イメージ	27
③ 子ども読書活動等に関するアンケート調査結果(概況)	28
④ 読書ボランティア団体一覧	39
⑤ 子ども読書活動に関連する主な出来事	41

○ 古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会要綱

○ 古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会委員名簿

1

子ども読書活動の意義

読書には、想像力を豊かにし、物事に興味を持ち、未知との出会いを創出し、感動を呼び起こす力があります。

特に子どもは、読書によって言葉を学び、感性を磨き、表現力を高めていきます。古賀市の学校では、「朝の読書」の時間を設けるなど、子どもの読書活動が盛んに行われており、子どもが読む本の冊数は全国平均を上回っています。

インターネット等の普及により、全国的には高校生の頃からの読書離れが進み、情報収集源としての本への依存度は減少傾向にあります。子どもの頃からの読書活動の継続により、これからの生涯学習社会を生き抜く学びの技術を身につけることが重要となってきています。

2

国内と古賀市の動き

(1) 国は法律と第1次計画を策定し、現在は第4次計画

- ①平成13(2001)年12月／
「子どもの読書活動の推進に関する法律」制定
- ②平成14(2002)年8月／
「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」策定
- ③以来、約5年ごとに計画策定
- ④平成30(2018)年4月／「第4次計画」策定〈概ね5年間〉

(2) 福岡県も計画を策定

- ①平成16(2004)年2月／「福岡県子ども読書推進計画」策定
- ②平成22(2010)年3月／改訂(第2次計画)
- ③平成28(2016)年8月／改訂(第3次計画)〈概ね5年間〉

(3) 古賀市の動き

古賀市は子どもの読書活動の意義や大切さを踏まえ、これまでアンケート調査等を参考に計画を策定し、これを基に子どもの読書活動を推進してきました。

- ①平成18(2006)年4月／「古賀市子ども読書活動推進計画」策定
- ②平成24(2012)年10月／改訂(第2次計画)
- ③平成29(2017)年10月／「第3次計画」策定〈概ね5年間〉



3

計画の期間・対象・位置づけ

(1) 計画の期間

令和4(2022)年度～令和9(2027)年度までの概ね5年間

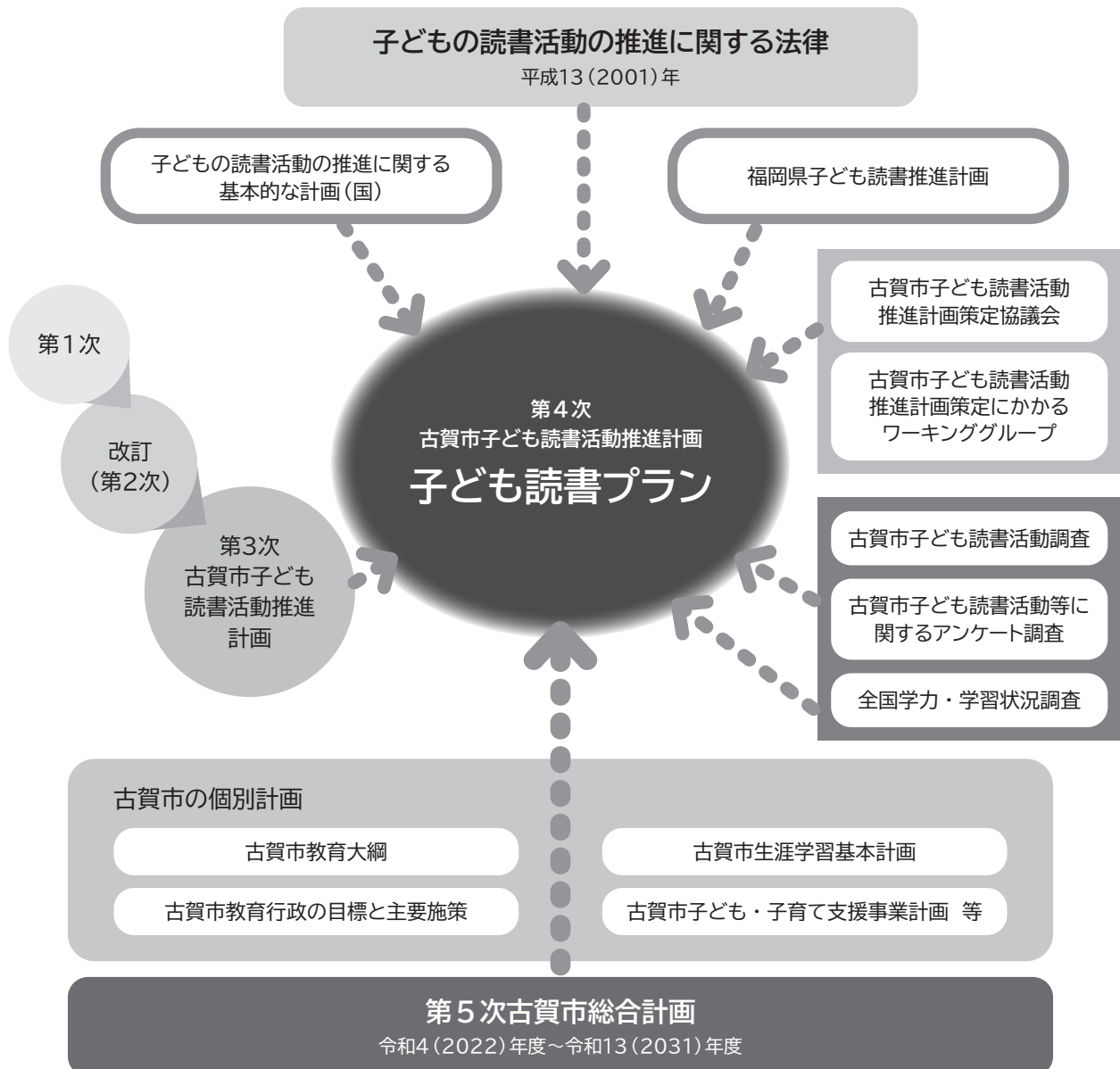
(2) 計画の対象

古賀市に在住・在学する、概ね18歳以下の子ども及びその保護者

(3) 「読書活動」とは

読書という本を読む行為と、読書に関するさまざまな活動(読み聞かせ、講演会、体験教室、映画会等)を合わせたもの

(4) 計画の位置づけ・策定体制等



(1) 読書環境の変化

① 読書スタイルの変化

デジタル庁を国が新設するなど、情報化社会が急速に進んでおり、読書を取りまく状況も変わろうとしています。

すでにスマートフォン、タブレット端末等のデジタル機器が普及し、インターネットを通じた電子書籍等の流通が活発化してきました。

これにより、読書スタイルは紙の本だけでなく、電子書籍等も加わり選択肢が増えています。

② 子どもの読書環境の変化

令和元(2019)年12月に端を発した新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちを取りまく生活スタイルを一変させました。

図書館の休館や、読み聞かせ等多くのイベントの中止が相次ぎ、子どもの読書環境も変化しました。

人と人とのふれあいを通じての、読書の喜びや楽しさを伝えることが難しい状況は、今後もしばらくは続くと思われます。

③ 入手方法の変化

本を入手する方法も変化が見られ、インターネットでの購入や、中古書店での購入など多様化しています。一方で、書店の数は古賀市内には1店のみとなり、全国的にも減少傾向にあります。



(2)古賀市の特徴

①子どもの読書活動の歴史的な伝統と実績

古賀市には地域で子どもの読書活動を大切にする気風が脈々と受け継がれています。大正12(1923)年につくられた席内(むしろうち) 市立図書館をはじめ、小・中学校には福岡県内でも先駆けて学校司書が配置されており、活発な図書館活動のもと、学校はこれまで数々の読書活動に関する表彰を受けています。

②多彩なネットワークに支えられた読書活動

これまで多くの団体(読書ボランティア等)や機関(学校、公的機関等)が、相互に協力・連携・支援して、子どもの読書活動を推進してきました。また、本をとおしてさまざまな交流の場を生み出してきました。

③熱心な読書ボランティアによる息の長い活動

6つの地域文庫をはじめ、24団体を数える読書ボランティアによる、子どもに寄り添った息の長い活動は、本との出会いや読書の楽しさをたくさんの子どもの伝えてきました。

④「生涯学習ゾーン」内に立地している市立図書館

市立図書館がある「生涯学習ゾーン」には、「リーパスプラザこが」として、歴史資料館、交流館、中央公民館があるほか、市民グラウンドや市民体育館等があります。また、このゾーンは古賀竟成館高校に隣接し、JR古賀駅や古賀市役所、福岡女学院看護大学にも近く、教育・文化・スポーツ・公共機関が集積し、その相乗効果が期待できます。

5

アンケート結果から見る子ども読書活動の現状と分析

古賀市の子どもの読書活動の現状を把握するため、乳幼児とその保護者、高校生に対しては、令和3（2021）年11月に古賀市独自の「子ども読書活動等に関するアンケート調査」を実施し、小・中学生に対しては、国による「全国学力・学習状況調査」の結果を活用しながら現状を分析しました。

（1）乳幼児

保護者が読み聞かせをしている割合が9割を超え、読み聞かせの頻度は週1回以上が8割近くを占めることから見ても、読み聞かせに対する保護者の関心の高さや熱心さがうかがえます。

その背景には、保育所（園）・幼稚園等をはじめ、地域文庫や読書ボランティア等による読み聞かせや、本を手に取りやすくする環境づくりが効果をあげているといえます。また、それに加え、家庭内で読書に親しめるようなはたらきかけの効果が出ています。

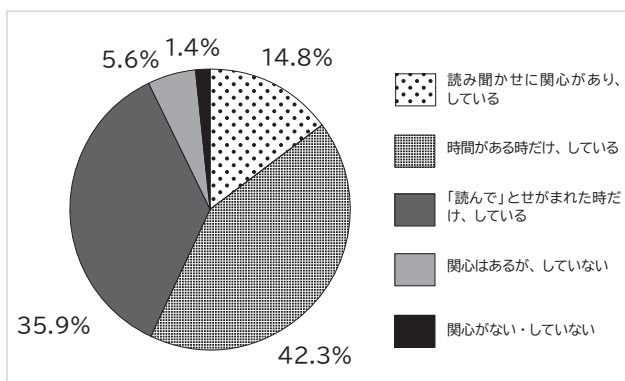
本の入手や選書にあたっては、書店やインターネット等を活用する割合が7割を超えている一方、市立図書館を利用する保護者の割合は約3割です。

その理由としては、保護者が返却期限にしばられず読書を気軽に楽しみたいという思いがあることが一因といえます。また、市立図書館では「子どもがさわぐ」「借りた本を汚損する」等の心配もあり、「借りずに買う」という選択をする保護者が多いことも一因といえます。

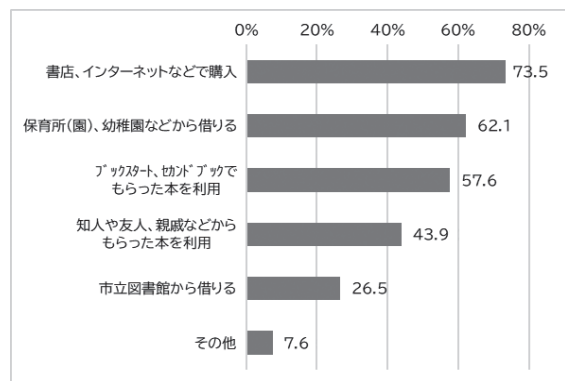
なお、「ブックスタート」や「セカンドブック」といった取組は、読み聞かせや読書のきっかけづくりとして、一定の評価を受けています。

幼い頃から本にふれる環境や機会が身近にあることが、その後の読書習慣の定着につながることから、今後も保護者に読み聞かせの大切さを伝えるとともに適した本の情報等を届けることが重要です。

【読み聞かせの実施状況】



【読み聞かせに使う本の入手先】



(2) 小・中学生

国が実施した「全国学力・学習状況調査(平成28(2016)年度、令和元(2019)・3(2021)年度)」によると、小学6年生、中学3年生ともに、読書が好きな割合は7割を超え、特に中学生は増加しており、福岡県及び全国平均を上回っています。

1日に短時間でも読書をする習慣がついている割合は、小学生が7割、中学生が6割を超えていることから、読書に対する意識の高さがうかがえます。

また、学校図書館や地域の図書館に行く割合も、福岡県及び全国平均よりも高く、ともに増加している状況です。

その理由としては、学校での「朝の読書」や読書ボランティアが行う「朝の読み聞かせ」等の効果があると思われます。また、学校図書館に学校司書が配置され、学校における「読書センター」や「学習・情報センター」としての環境が整い、子どもにとって学校図書館が身近な存在になっていることを示す結果ともいえます。

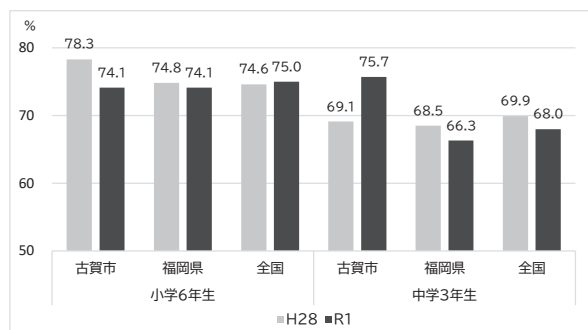
一方で、読書をしない割合は小・中学校ともに約3割でともに増加しています。その背景には、パソコンやスマートフォン等の発達・普及により、子どもをとりまく環境の変化が影響していることが考えられます。

また、学習塾や習い事、部活動など、読書以外に時間を割かざるを得ない状況となっていることが、学校図書館における年間貸出冊数の減少からもうかがえます。

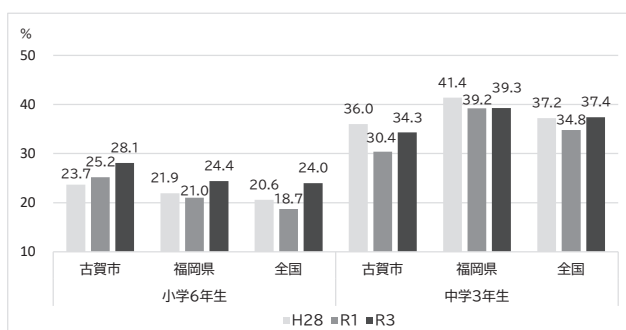
さらに、SNS やゲーム、動画視聴など、興味・関心が本以外の媒体に向いており、この傾向はこれからさらに強くなる可能性があります。

小・中学校9年間においては、読書に興味・関心を引くような取組をさらに充実し、常に本との関わりを持たせ、読書をするきっかけづくりを続けていく必要があります。

【読書が好きな割合】



【読書をしない割合】



(3) 高校生

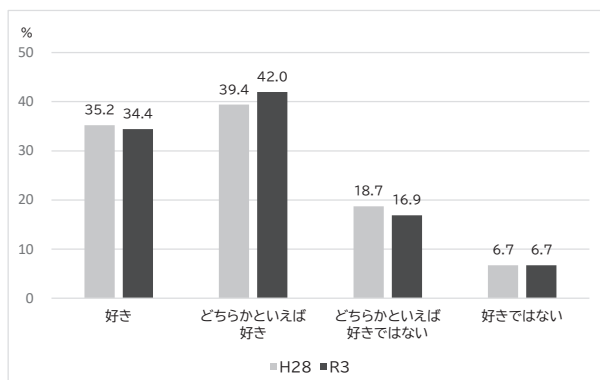
高校生の読書が好きな割合は8割近くと、5年前と同様に高い割合を維持しています。また、1か月に1冊以上の本を読んだ割合も8割を超え、5割は月1回以上学校図書館に行くなど、読書や図書館を好意的にとらえていることがうかがえます。

これらは、高校での「朝の読書」等によって本を読む習慣が身についたことに加え、自主的な委員会活動が積極的に行われた成果によるものといえます。

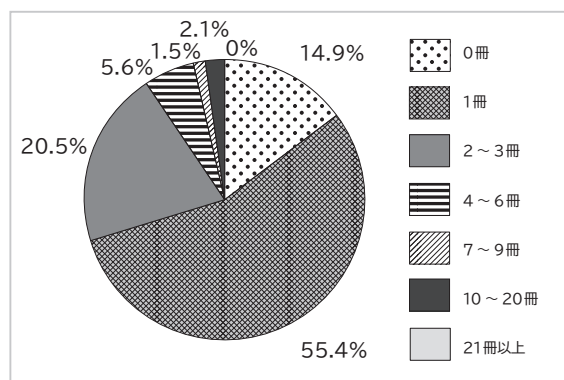
幼少期から小学校高学年までは読書量は増加するものの、中・高校生では読む時間や本の量ともに減少していく傾向にあります。その理由としては、「勉強や部活動等で忙しい」「普段から本を読む習慣がない」「興味・関心に合う本が身近にない」等があげられます。

また、紙の本もある程度は読んでいるものの、傾向としては、スマートフォン等で気軽に読むことができる電子媒体に移行しつつある状況がうかがえます。一方で、「古賀市電子図書館サービス」の利用率は低いという実態が見えてきました。

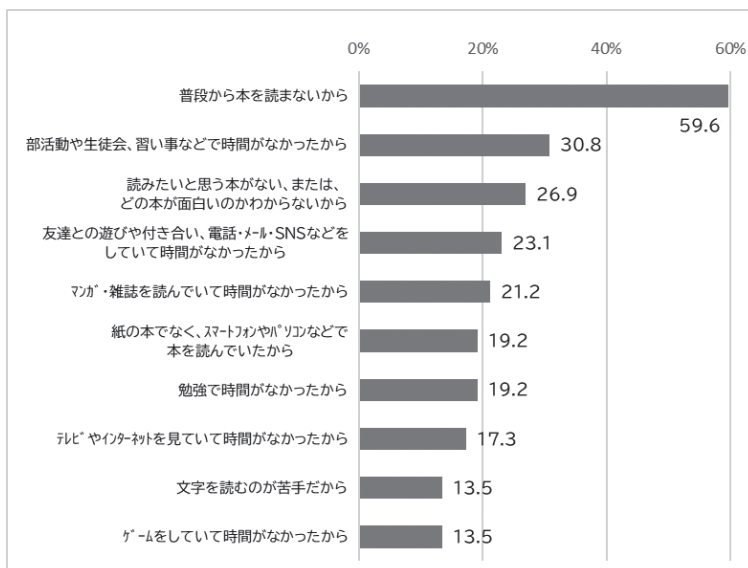
【読書が好きな割合】



【1か月の読書冊数】



【本を読まなかった理由】



(1) 家庭

古賀市では、生後6か月の乳児とその保護者には「ブックスタート」で、3歳児には「セカンドブック」で絵本と出会うきっかけをつくり、また、市立図書館でもおはなし会を開催するなど、家庭で絵本にふれあう環境づくりや読み聞かせ活動を行ってきました。

今回実施したアンケート調査によると、「ブックスタート」等の取組は、きっかけづくりとして一定の成果をあげており、各家庭では頻繁に読み聞かせが行われ、また、保育所(園)・幼稚園等による読み聞かせ等の取組は、家庭での読書習慣の定着に大切な役割を果たしていることがわかりました。

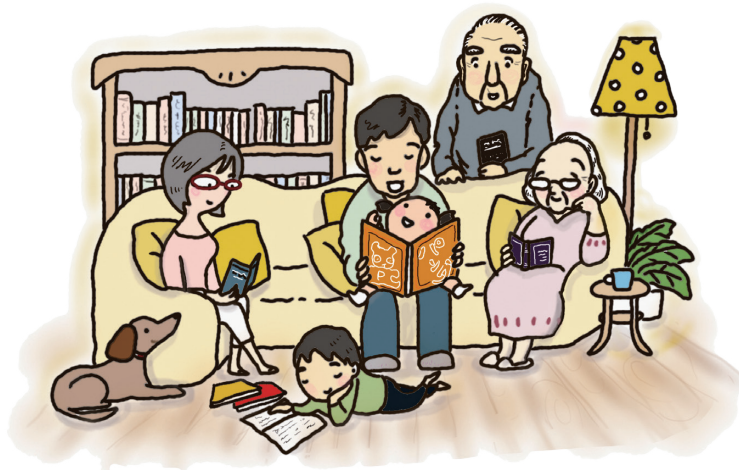
一方、「仕事や家事で忙しく、読み聞かせの時間がとれない」など、読書時間の確保や読み聞かせに使う本の入手が難しい家庭があるという課題も見えてきました。

今後は、「ブックスタート」や「セカンドブック」の効果を踏まえ、その後の発達段階に合わせた絵本選び等のフォローアップや、市立図書館を乳幼児とその保護者が気軽に利用できるように工夫することが課題です。

あわせて、子どもの読書の習慣化を促すためには、まず保護者に乳幼児期から本に親しむ大切さを伝え、家族ぐるみで読書を楽しむような雰囲気醸成することが課題といえます。



市立図書館での「赤ちゃんおはなし会」



イラスト：ともすぎ ちづる

(2) 地域

古賀市には、地域や学校、市立図書館で長年活動を続ける読書ボランティアが多数あり、読み聞かせや本にふれるイベント等を実施しています。

このうち、6つの地域文庫は、地域における子どもの読書活動の拠点として、日常的な本の貸出しや読み聞かせのほか、子ども会育成会等と連携して季節ごとの行事を開催しています。また、地域文庫を利用して中・高校生がこの活動をサポートするなど、活動が広がりを見せています。

そのほかにも、地域の公民館では、乳幼児とその保護者の居場所づくりや、世代間交流を行う「子育てサロン」が開設され、子どもが地域で読書しやすい環境づくりが進められています。

これらは、古賀市の中でこれまで受け継がれてきた、“地域で子どもを育てる気風”が今も息づいていることを感じさせます。

一方、コロナ禍の影響によって、これらの活動は中断や縮小を余儀なくされています。また、地域文庫や読書ボランティア等の担い手の減少や高齢化等の課題も見られます。

地域での子どもの読書活動をさらに活性化させるためには、新たな人材や担い手を発掘・養成するとともに、地域と関係機関とをつなぎ、ネットワークをさらに深めていくことが課題といえます。



地域文庫のイベント

(3) 保育所(園)・幼稚園等

保育所(園)・幼稚園等では、絵本コーナーの設置をはじめとして、絵本が身近にあり、いつでも自由に手にとって楽しめる環境づくりが進められています。その活動を支援するため、市立図書館は団体貸出やブックリサイクル本の提供を行ってきました。



保育園の絵本コーナーと
園児への貸出しの様子

このほかにも、読書ボランティアによるおはなし会が定期的で開催されるなど、読書ボランティアとの連携も成果をあげ、年長児が年下の園児に読み聞かせる姿等も見られるようになりました。

市立図書館の蔵書を活用して団体貸出等を行うとともに、市立図書館のイベント情報の提供など、連携をさらに深めることが課題といえます。

(4) 学校

小・中学校では、「朝の読書」や「読書週間」、読書目標の設定のほか、読書ボランティアと連携した「朝の読み聞かせ」や「おはなし会」等が、これまで積極的に取り組まれてきました。その原動力となったのが、市内全小・中学校に配置された学校司書といえます。

また、子どもの自主的な読書活動等により、市内複数の小学校が「子どもの読書活動優秀実践学校の部 文部科学大臣表彰」や「西日本読書感想画コンクール」で表彰されるなど、充実した読書活動は高く評価されています。

高校においても、図書委員会の生徒が学童保育所での朗読会を数年にわたり開催するなど、読書活動に主体的にかかわる姿勢がうかがえます。

また、特別支援学校では、市立図書館の団体貸出が活用されており、「読書週間」等の行事にも積極的に取り組まれています。

図書館に行く割合は小・中学生ともに増加し、福岡県及び全国平均を上回る数値で、高校生は定期的に通う割合が増えています。

しかし、不読率は小・中・高校生ともに増加傾向にあります。その原因として、学習塾や習い事、部活動等に時間を割かざるを得ない状況がうかがえ、電子機器を使用するゲーム時間等の増加も要因と考えられます。デジタル機器を生活の中から切り離すことができない子どもに、「古賀市電子図書館サービス」を周知していく必要があります。

また、限られた時間の中で、読書の量も大切にしつつ、質も考えた読書を進めていくことが重要です。



読書ボランティアによる
朝の読み聞かせ



小学1年生対象の
市立図書館司書によるおはなし会

(5) 市立図書館をはじめとする公共機関

市立図書館は、読書活動の拠点として、子どもの読書活動に関わる団体や機関に対して団体貸出等を行ってきました。

また、イベントの開催や、読書ボランティア等の機関との連携、交流、支援にも力を入れてきました。

さらに、小学校の新学習指導要領の改訂に合わせたプログラミング教室や、異年齢間の読み聞かせ交流「高校生によるおはなし会」等も開催し、新たな取組として参加者に好評でした。

ほかにも、市立図書館では、貸出点数や貸出期間の見直しや「古賀市電子図書館サービス」を導入したことで、コロナ禍の読書活動の幅を広げることにつながりました。

児童館・児童センターでは、本と親しむきっかけづくりのため、乳幼児とその保護者に絵本の読み聞かせを行っています。来館する子どもがおすすめの本のプレートを作成し、本の紹介を行うなど、自主的な活動が見えはじめました。

また、学童保育所では、時間割に読書活動を組み入れ、さまざまな場面で本にふれる環境づくりを推進してきました。

しかし、市立図書館をはじめとする公共機関では、コロナ禍の影響もあって、子ども向け事業の中止や入場制限によって参加者数が伸び悩み、市立図書館の貸出冊数、入館者数も減少傾向にあります。

子どもの読書活動のみならず、古賀市全体の読書活動をどのように推進するか、また、公共機関や読書ボランティア等が、どのように互いの交流を深めて、そのつながりを確認なものにしていくかが問われています。



地域文庫の皆さんによる
おはなし会スペシャル



大学との連携によるプログラミング教室

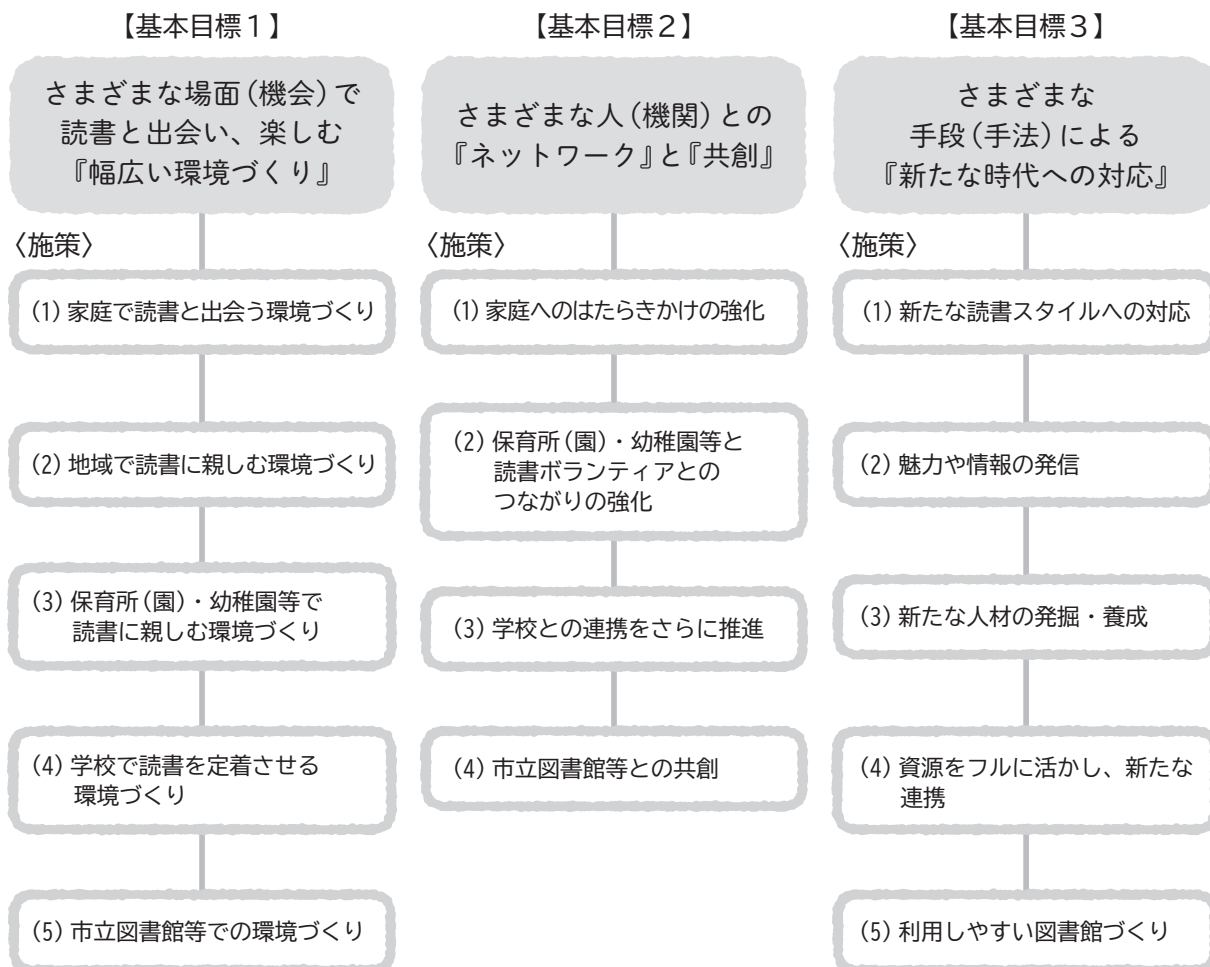
この計画では、第3次までの本計画の理念である「すべての子どもが、あらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、家庭・地域、保育所(園)・幼稚園等、学校、行政が一体となって環境の整備を推進する」を受け継ぎ、次のテーマに基づき、実現のための基本目標や具体的な取組を定め、計画を推進していきます。

(1) テーマ

いつも本をそばに
～本がはぐくむ 子どもの未来～

子どもが読書の楽しさや知る喜びを実感することにより、自ら進んで読書に親しみ、心豊かに成長することをめざします。

(2) 基本目標



【基本目標1】

さまざまな場面（機会）で読書と出会い、楽しむ『幅広い環境づくり』

家庭をはじめ、地域、保育所（園）・幼稚園等、学校及び市立図書館などの、さまざまな場面（機会）で読書と出会うきっかけをつくり、読書を楽しむ取組をさらに充実させます。

また、子どもだけでなく、保護者へのはたらきかけも重視した幅広い環境づくりや、体験をまじえた広がりのある読書活動をさらに推進します。

(1) 家庭で読書と出会う環境づくり

①「ブックスタート」「セカンドブック」の継続

〈関係機関〉市立図書館、子育て支援課

乳幼児期からの読み聞かせの大切さを伝えるため、乳児には「ブックスタート」で、また、3歳児には「セカンドブック」で、相乗効果を念頭に置き、家庭での読書がとぎれないように絵本を手渡す事業を継続します。

②保護者へのはたらきかけ

〈関係機関〉市立図書館、子育て支援課

！重点

保護者の読書への関心をより深めるための啓発を行うとともに、絵本を通じて家庭でのふれあいの時間を持てるよう、読み聞かせのコツやおすすめの本のリスト等も紹介します。

③妊娠期からのきっかけづくり

〈関係機関〉市立図書館、子育て支援課

出産を控えた人（プレママ、プレパパ）に、妊娠期からの読書の大切さを伝え、親しんでもらうための啓発に取り組みます。

④家庭での読書時間の確保

〈関係機関〉市立図書館、学校教育課、学校、子育て支援課、青少年育成課

ゲーム、インターネット（動画視聴）等に偏りがちな余暇の時間の使い方を振り返り、家族ぐるみで読書を楽しむような雰囲気づくりを行い、家庭でのルールづくりを呼びかけます。



(2) 地域で読書に親しむ環境づくり

① 地域に本がある環境づくり

〈関係機関〉市立図書館、子育て支援課

地域で身近に読書に親しめる場を提供するため、多彩な活動を行う地域文庫を団体貸出等で支援します。

また、地域の公民館で行われている「子育てサロン」での乳幼児への読み聞かせが充実するよう、団体貸出等をとおして支援します。

「つどいの広場でんむし」を利用する子どもとその保護者が絵本に親しめるよう、読書コーナーの充実を図るとともに、保護者が子どもに日常的な読み聞かせや適した絵本の選択ができるよう、子どもの年齢や発達に応じたアドバイスをを行います。

② 放課後に本がある環境づくり

〈関係機関〉市立図書館、青少年育成課

児童館・児童センターで子どもが本にふれる機会を増やすため、読み聞かせ等を継続するとともに、市立図書館の団体貸出等を活用して図書コーナーの本の充実を図ります。

また、学童保育所を利用する子どもがさまざまな本と出会うため、図書コーナーを充実させ、読み聞かせをするなど、読書に親しむ環境を整えます。

(3) 保育所(園)・幼稚園等で読書に親しむ環境づくり

① 日常的な読み聞かせの継続

〈関係機関〉子育て支援課、保育所(園)・幼稚園等

絵本の楽しさを知り、豊かな表現力を養えるよう、子どもの成長に合わせた日常的な読み聞かせや、読書ボランティアのおはなし会を継続します。

② 絵本コーナーの充実

〈関係機関〉子育て支援課、保育所(園)・幼稚園等、市立図書館

一人ひとりの子どもに合わせて本が選べるよう、絵本コーナーを設け、市立図書館の団体貸出等を活用してコーナーの充実を図ります。

③ 保護者へのはたらきかけ

〈関係機関〉子育て支援課、保育所(園)・幼稚園等

！重点

家庭での読書活動を支援するため、保護者に定期的に絵本の貸出しを行います。

また、「おたより」等をとおして、読書習慣の大切さを伝えるとともに、おすすめの本の紹介等の情報を提供します。

(4) 学校で読書を定着させる環境づくり

① 司書教諭と学校司書の連携

〈関係機関〉学校教育課、学校

司書教諭と学校司書が連携して、子どもの自主的な読書活動をさらに推進します。

② 蔵書の更新

〈関係機関〉学校教育課、学校

子どもの多様な興味・関心、調べ学習等に応えるため、基準に沿った計画的な蔵書の収集・更新を進めます。

③ 本を手に取りやすい環境づくり

〈関係機関〉学校教育課、学校

子どもの学習を支援し、親しみやすく利用しやすい図書館となるよう、おすすめの本コーナーづくりや掲示物の工夫等に努めます。

④ 読書活動の推進

〈関係機関〉学校教育課、学校

！重点

本と親しみ、読書習慣が身につくよう、「朝の読書」等の時間を確保するとともに、学年に応じて読書目標等を定めます。

また、「読書週間・月間」等に合わせ、おすすめの本の紹介やPOPづくり、ビブリオバトルなど、図書委員会が中心となったさまざまな読書活動をさらに推進します。

⑤ 市民に開かれた学校図書館づくり

〈関係機関〉学校教育課、学校、市立図書館

地域住民の学びの場となるよう、小・中学校の図書館を市民に開放する取組を継続します。

(5)市立図書館等での環境づくり

①本と気持ちよく出会える場づくり

〈関係機関〉市立図書館

子どもとその保護者も来館しやすい雰囲気づくりに努めます。
また、子どもが本と楽しく出会えるよう、企画展示やおすすめの本の紹介等についてさらに工夫します。

②児童書の収集・更新

〈関係機関〉市立図書館

子どもの多様な興味・関心に応えるため、児童書の収集・更新を進めます。
また、個々のニーズに応じた読書を支援するため、絵本や紙芝居等の読み物だけでなく、調べ学習に活かせる資料を充実させます。

③さまざまなイベントの展開

〈関係機関〉市立図書館、学校

！重点

「赤ちゃんおはなし会」等の対象年齢別のおはなし会に加えて、「プレママ・プレパパおはなし会(仮称)」に取り組みます。
また、工作や科学あそびのほか、「高校生によるおはなし会」など、さまざまな角度から本との出会いの場を提供します。
さらに、図書館に対する理解、愛着を深めるため、「子ども図書館員」等を継続します。

④中・高校生へのはたらきかけ

〈関係機関〉市立図書館、学校教育課、学校

中・高校生の読書へのさらなる興味・関心を高めるため、中・高校生のニーズを引き出しながら選書作業に直接関わってもらい、「YA(ヤングアダルト)コーナー」の充実や展示の工夫を図ります。
また、「古賀市電子図書館サービス」の利用を促します。

⑤支援が必要な子どもへのサービスの充実

〈関係機関〉市立図書館、福祉課

支援が必要な子どもや、日本語以外の言語を使う子どもが読書に親しめるよう、布絵本や点字絵本、外国語絵本等の多様な資料の収集に努めます。

【基本目標2】

さまざまな人(機関)との『ネットワーク』と『共創』

各機関がそれぞれの役割を担い、家庭をはじめ、地域、保育所(園)・幼稚園等、学校、読書ボランティアなど、さまざまな人(機関)の持ち味を生かしながら、多彩な『ネットワーク』をさらに深めます。

また、多様な人材が交流し連携することで相互に刺激し、高めあうなど、子どもの読書活動を共に創る＝『共創』をさらに進めます。

(1)家庭へのはたらきかけの強化

①保育所(園)・幼稚園等から家庭へ

〈関係機関〉子育て支援課、保育所(園)・幼稚園等、市立図書館

家庭での読書のきっかけをつくるため、保育所(園)・幼稚園等では「おたより」等を活用し、読書に関するイベント情報等も提供しながら、家庭でも読書に親しめるよう、はたらきかけます。

②読書ボランティアから家庭へ

〈関係機関〉市立図書館

家庭や地域の中で本とふれあう機会をつくるため、地域文庫等が行う公民館でのおはなし会等をとおして、家庭・地域・読書ボランティアの連携をさらに深めます。

③学校から家庭へ

〈関係機関〉学校、学校教育課

家庭での読書の定着を図るため、「図書館だより」の発行や「家庭読書の日」の取組等をとおして、家族が一緒に読書をする大切さを伝えます。

④市立図書館等から家庭へ

〈関係機関〉市立図書館、青少年育成課

市立図書館は、家庭での読書を普及・促進するため、子どもの読書に関する啓発冊子を作成するなどし、読書の大切さを伝えます。

また、児童館・児童センター等の公共機関は、身近に本と親しめるよう、読み聞かせ等の取組を推進します。

(2) 保育所(園)・幼稚園等と読書ボランティアとのつながりの強化

① 読書ボランティアとの連携

〈関係機関〉子育て支援課、保育所(園)・幼稚園等、市立図書館

子どもがおはなしを聞く楽しさを体験できるよう、保育所(園)・幼稚園等と読書ボランティアの交流や連携をさらに深めます。

(3) 学校との連携をさらに推進

① 読書ボランティアとの連携

〈関係機関〉学校教育課、学校

子どもが読書ボランティアとの交流を深めながら、読書意欲や関心を高めるため、「朝の読書」や「おはなし会」を今後も継続するとともに、保護者向けの啓発に努めます。

② 保育所(園)・幼稚園等との連携

〈関係機関〉学校、保育所(園)・幼稚園等

子ども同士の交流をとおして読書活動を広げるため、小学生が保育所(園)・幼稚園等に訪問して行う、紙芝居や絵本の読み聞かせをさらに推進します。

③ 市立図書館等との連携

〈関係機関〉市立図書館、学校教育課、学校

！重点

子どもの読書意欲を高め、調べ学習に応えるため、市立図書館の蔵書を活用して、学校からの要望を踏まえたセット貸出に取り組みます。

また、学校からの見学や中学生職業体験学習「ドリームステージ」等の受入れを行います。

さらに、小学生向けの市立図書館利用案内の配布のほか、パソコン端末を活用した電子図書館サービスの利用促進について、学校と連携しながら研究します。

④ その他の機関との連携

〈関係機関〉市立図書館、青少年育成課、学校

高校生の読書活動を広げ、異年齢の子ども同士が交流をとおして読書と親しめるよう、「学童保育所でのおはなし会」や「子どもわくわくフェスタ」等での高校生による読み聞かせ等に取り組みます。

(4)市立図書館等との共創

①保育所(園)・幼稚園等への支援

〈関係機関〉保育所(園)・幼稚園等、市立図書館

保育所(園)・幼稚園等での読書活動を支援するため、市立図書館の蔵書を活用した団体貸出等とともに、読書活動に関する情報の提供等を充実させます。

②読書ボランティアとの連携と支援

〈関係機関〉市立図書館

!重点

地域文庫をはじめとした読書ボランティアの活動を支援するため、相互の連携を深める「読書ボランティア団体交流会」や「地域文庫連絡会」等の充実を図ります。

また、活躍の場をさらに広げるため、連絡・調整を行い、各機関との連携を強化します。

さらに、多年にわたり、子どもの読書活動に功績のある団体や人材を顕彰するため、功労者としての推薦や紹介を積極的に行います。

③市立図書館と学校図書館の連携

〈関係機関〉市立図書館、学校教育課、学校

!重点

子どもの読書意欲や問題解決に効果的に応えるため、市立図書館と学校図書館は連携し、情報交換等を積極的に行います。

④他の公共機関との連携

〈関係機関〉市立図書館、文化課、生涯学習推進課、青少年育成課

市立図書館は、古賀市の「生涯学習ゾーン」の中に位置する立地条件を活かすため、各機関(歴史資料館、交流館、中央公民館、市民グラウンド、市民体育館等)との相乗効果を意識したイベントや、相互PR等を研究します。

また、児童館・児童センター等の公共機関は、図書コーナーをさらに利用しやすくするため、市立図書館と連携してコーナーの充実を図ります。



【基本目標3】

さまざまな手段(手法)による『新たな時代への対応』

子どもをとりまく環境や読書スタイルが変化する中、新たな発想や視点で、新たな時代に向けた取組を推進します。

(1) 新たな読書スタイルへの対応

① 電子図書館サービスの充実

！重点

〈関係機関〉市立図書館、学校、学校教育課、青少年育成課

勉強や部活動で多忙な子どもや、個々の事情から来館しにくい子どもが図書館サービスを利用できるよう、「電子図書館サービス」をさらに充実させます。

また、学校における「GIGA スクール構想」の取組等と連携し、紙の本による読書と「電子図書館サービス」、それぞれの効果的な使い方について研究するとともに、サービスの広報・周知に努めます。

(2) 魅力や情報の発信

① ホームページや SNS 等の充実

！重点

〈関係機関〉市立図書館

子どもや保護者の視点に立った、わかりやすく、親しみやすい情報提供に努めるため、現在の市立図書館や市の公式ホームページ、教育委員会の SNS 等に加えて、市立図書館の SNS を開設し、即時性を活かした情報提供等の発信を積極的に行います。

② 広報紙・ポスターで PR 強化

〈関係機関〉市立図書館、学校

読書活動に関する情報を幅広く提供するため、市の広報紙の「図書館だより」コーナーを有効活用し、子ども向けおすすめの本の紹介やイベントの PR に努めます。

また、読書活動に関するチラシやポスター等も、より伝わりやすい紙面づくりに努め、展示方法も工夫します。

③メディアへの情報提供

〈関係機関〉市立図書館、学校教育課、学校、子育て支援課、青少年育成課

子どもの読書活動にかかわる取組を市内外にPRするため、各種メディアへの情報提供により、魅力発信を積極的に行います。

(3) 新たな人材の発掘・養成

①読書ボランティアの養成

〈関係機関〉市立図書館

!重点

地域に根差し、子どもに寄り添う読書活動をさらに推進するため、その担い手である地域文庫や読書ボランティアの養成に向けた講座等を実施し、新しい人材の確保や担い手づくりを支援します。

(4) 資源をフルに活かし、新たな連携

①大学との連携を促進

〈関係機関〉市立図書館、学校

古賀市近隣に立地する大学のさまざまな知識や技術を活かした「地域貢献力」を、子どもの読書活動に活用するため、連携のあり方や方法について研究し、大学生と子どもの交流を進めます。

②企業との連携を促進

〈関係機関〉市立図書館、学校

古賀市内の企業等の協力を得て、市立図書館の「雑誌スポンサー制度」を拡充します。

また、子どもが郷土に関心を持ち、市内の企業について調べられるよう、「社史」や「企業紹介パンフレット」等を収集します。



(5) 利用しやすい図書館づくり

① “古賀の誇り” コーナーの充実

〈関係機関〉市立図書館

子どもが郷土に誇りを持ち、未来に豊かな夢を描けるよう、古賀市出身の著名人をはじめ、船原古墳等の歴史的遺産を紹介する「郷土資料コーナー」をさらに充実させます。

② 企画展示コーナーの充実

〈関係機関〉市立図書館、学校

子どもが読書に興味を持つよう、季節ごとの行事や市内でのイベント、国内外の出来事など、機会をとらえ、それらの関連本を紹介する展示コーナーを充実させます。

③ 子どもが気軽に利用できる図書館へ

〈関係機関〉市立図書館、子育て支援課

乳幼児とその保護者が気軽に図書館を利用できるよう、乳幼児が利用しやすい時間帯を設定する「赤ちゃんタイム(仮称)」等に取り組みます。

④ 「こがめルーム」の活用

〈関係機関〉市立図書館

おはなしの部屋「こがめルーム」をより使いやすくするため、改修を機に、おはなし会に加えて、調べ学習や絵本を読み合えるスペースとして幅広く活用します。

9

進捗管理

(1) 計画の進行及び進捗管理

本計画で掲げた具体的方策が、家庭や地域、保育所(園)・幼稚園等、学校及び市立図書館などで展開、推進されるよう、毎年度、各取組の進捗や課題の実態把握に努め、PDCAサイクルの手法により、本計画を効果的・効率的に推進していきます。

また、その結果を古賀市図書館協議会に報告するとともに、市ホームページ等で公表します。



• 參考資料

《参考資料》① 第4次古賀市子ども読書活動推進計画 体系図

【愛称】

子ども読書プラン

【テーマ】

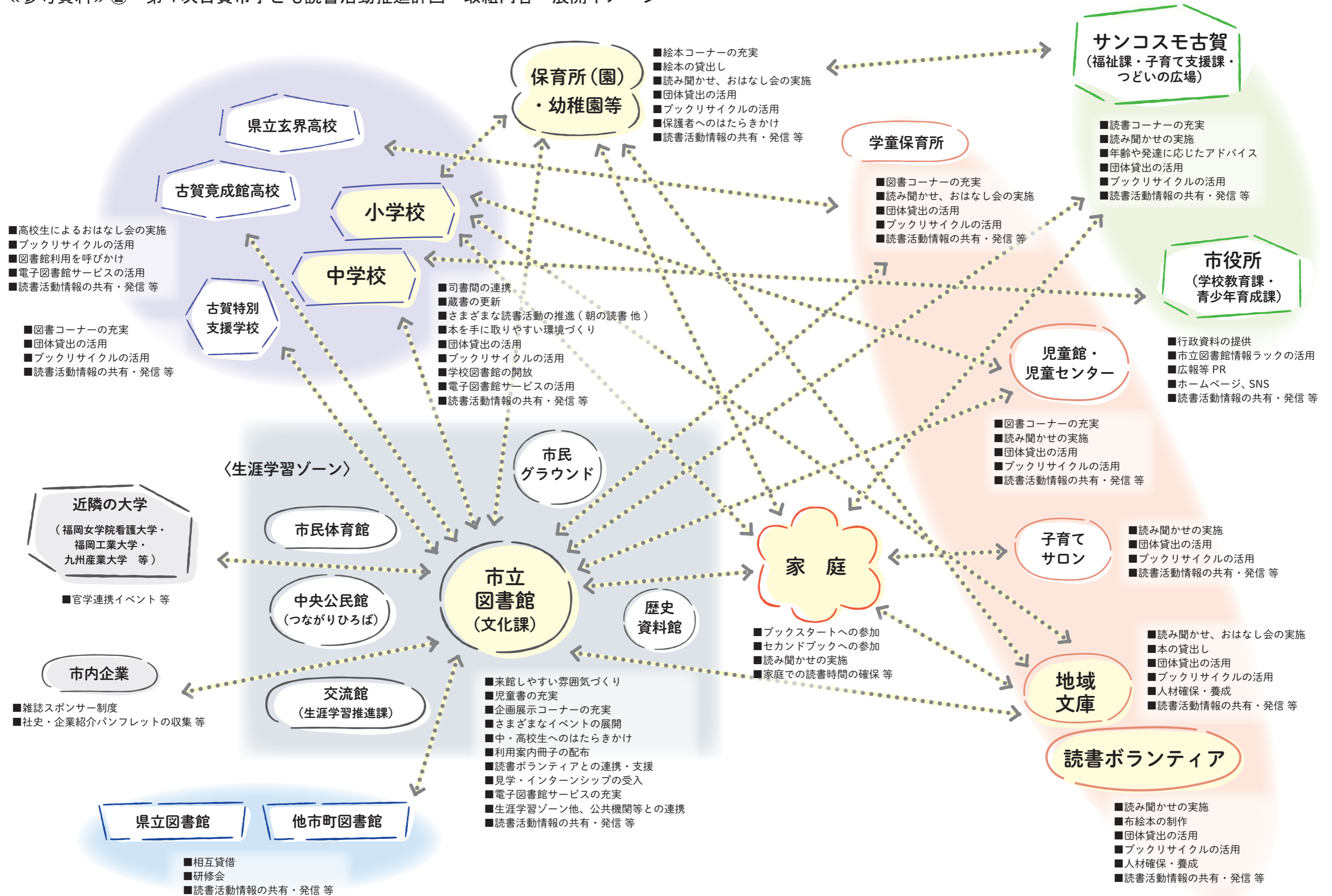
いつも本をそばに ～本がはぐくむ 子どもの未来～

【方向性】

子どもが読書の楽しさや知る喜びを実感することにより、自ら進んで読書に親しみ、心豊かに成長することをめざす

	施策	主な取組内容						
【基本目標1】 さまざまな場面(機会)で読書と出会い、楽しむ『幅広い環境づくり』	(1) 家庭で読書と出会う環境づくり	①「ブックスタート」「セカンドブック」の継続 ②保護者へのはたらきかけ ③妊娠期からのきっかけづくり ④家庭での読書時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ■家庭での読書がとぎれないよう「ブックスタート」「セカンドブック」を継続 ■読書への関心をより深めるための啓発 ■妊娠期からの読書の大切さを伝え、親しんでもらうための啓発 ■家族ぐるみで読書を楽しむ雰囲気づくり、ゲーム・インターネット等利用時間のルールづくり 	!重点				
	(2) 地域で読書に親しむ環境づくり	①地域に本がある環境づくり ②放課後に本がある環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ■地域文庫や子育てサロンなど、地域で身近に読書に親しめる場を提供 ■児童館・児童センター、学童保育所で子どもが本にふれる機会を増やす 					
	(3) 保育所(園)・幼稚園等で読書に親しむ環境づくり	①日常的な読み聞かせの継続 ②絵本コーナーの充実 ③保護者へのはたらきかけ	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもの成長に合わせた日常的な読み聞かせや、読書ボランティアによるおはなし会を継続 ■一人ひとりの子どもに合わせて本が選べる絵本コーナーの充実 ■定期的に絵本の貸出しができる環境づくり ■読書習慣の大切さを伝える 	!重点				
	(4) 学校で読書を定着させる環境づくり	①司書教諭と学校司書の連携 ②蔵書の更新 ③本を手に取りやすい環境づくり ④読書活動の推進 ⑤市民に開かれた学校図書館づくり	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもの自主的な読書活動をさらに推進 ■子どもの多様な興味・関心等にこたえる資料の収集・更新 ■親しみやすく利用しやすい図書館づくり ■本と親しみ、読書習慣を身につける ■図書委員会が中心となったさまざまな読書活動を推進 ■地域住民の学びの場づくり(学校図書館の開放) 	!重点				
	(5) 市立図書館等での環境づくり	①本と気持ちよく出会える場づくり ②児童書の収集・更新 ③さまざまなイベントの展開 ④中・高校生へのはたらきかけ ⑤支援が必要な子どもへのサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ■来館しやすい雰囲気づくり ■企画展示やおすすめの本の紹介等の工夫 ■子どもの多様な興味・関心にこたえ、調べ学習に活かせる資料の充実 ■おはなし会や工作・科学あそびなど、さまざまな角度から本との出会いの場を提供 ■読書へのさらなる興味・関心を高める ■電子図書館サービスの利用を促進 ■布絵本や点字絵本、外国語絵本等の多様な資料を収集 	!重点				
【基本目標2】 さまざまな人(機関)との『ネットワーク』と『共創』	(1) 家庭へのはたらきかけの強化	①保育所(園)・幼稚園等から家庭へ ②読書ボランティアから家庭へ ③学校から家庭へ ④市立図書館等から家庭へ	<ul style="list-style-type: none"> ■読書に関するイベント情報等を提供 ■家庭や地域の中で本とふれあう機会をつくる(読書ボランティアによるおはなし会等) ■家庭での読書の定着を図る(「図書館だより」「家庭読書の日」の取組等) ■子どもの読書に関する啓発冊子を作成 ■身近に本と親しめるよう読み聞かせ等の取組を推進 					
	(2) 保育所(園)・幼稚園等と読書ボランティアとのつながりの強化	①読書ボランティアとの連携	■保育所(園)・幼稚園等と読書ボランティアの交流や連携					
	(3) 学校との連携をさらに推進	①読書ボランティアとの連携 ②保育所(園)・幼稚園等との連携 ③市立図書館等との連携 ④その他の機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ■「朝の読書」や「おはなし会」を今後も継続 ■読書意欲や関心を高めるための啓発 ■子ども同士の交流をとおして、読書活動を広げる ■学校からの要望を踏まえたセット貸出の実施 ■パソコン端末を活用した電子図書館サービスのあり方を研究 ■異年齢の子ども同士が交流をとおして読書と親しめる取組の実施(学童保育所でのおはなし会等) 	!重点				
	(4) 市立図書館等との共創	①保育所(園)・幼稚園等への支援 ②読書ボランティアとの連携と支援 ③市立図書館と学校図書館の連携 ④他の公共機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ■市立図書館の蔵書を活用した団体貸出や、読書活動に関する情報を提供 ■ボランティア団体同志の交流会や連絡会等の充実 ■各機関との連携を強化 ■子どもの読書意欲や問題解決に効果的にこたえるために連携を強化 ■各機関との相乗効果を意識したイベントや相互PR ■市立図書館との連携によるコーナーの充実 	!重点 !重点				
【基本目標3】 さまざまな手段(手法)による『新たな時代への対応』	(1) 新たな読書スタイルへの対応	①電子図書館サービスの充実	■電子図書館サービスの周知・充実	■紙の本と電子書籍、それぞれの効果的な使い方を研究	!重点			
	(2) 魅力や情報の発信	①ホームページやSNS等の充実 ②広報紙・ポスターでPR強化 ③メディアへの情報提供	■わかりやすく、親しみやすい情報提供	■市立図書館のSNSを開設	■おすすめの本の紹介やイベントのPR	■より伝わりやすいチラシやポスター等の紙面づくり	■子どもの読書活動にかかわる取組を効果的に発信	!重点
	(3) 新たな人材の発掘・養成	①読書ボランティアの養成	■新しい人材の確保や担い手づくりを支援			!重点		
	(4) 資源をフルに活かし、新たな連携	①大学との連携を促進 ②企業との連携を促進	■大学のさまざまな知識や技術を活かす(官学連携イベント等)	■市立図書館の「雑誌スポンサー制度」を拡充	■「社史」「企業紹介パンフレット」等を収集			
	(5) 利用しやすい図書館づくり	①“古賀の誇り”コーナーの充実 ②企画展示コーナーの充実 ③子どもが気軽に利用できる図書館へ ④「こがめルーム」の活用	<ul style="list-style-type: none"> ■古賀市出身の著名人や歴史的遺産を紹介する「郷土資料コーナー」の充実 ■子どもが読書に興味を持つような展示コーナーの充実 ■乳幼児が利用しやすい時間帯を設定する「赤ちゃんタイム(仮称)」等の実施 ■おはなし会のほか、調べ学習や絵本を読み合えるスペースとして活用 					

《参考資料》② 第4次古賀市子ども読書活動推進計画 取組内容・展開イメージ



《参考資料》③

子ども読書活動等に関するアンケート調査結果（概況）

■子ども読書活動等に関するアンケート調査結果〔概況〕 【対象】乳幼児・その保護者

（対象数）199世帯 （回答数）142世帯 ※回収率 71.4%

※「複数回答とした設問（[問4・5・7・9]）」では、設問に対する回答者数を分母として選択肢毎の割合を算出した。（回答比率の合計が100%を上回る場合あり）

《対象年齢》

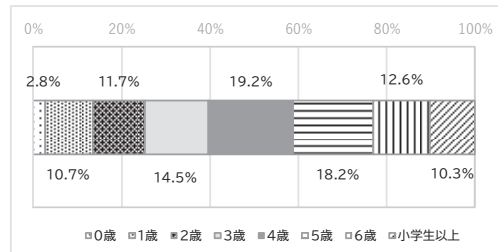
【問1】お子さんの年齢を教えてください。（複数回答）

	（回答数）	（割合）
1. 0歳	6	2.8%
2. 1歳	23	10.7%
3. 2歳	25	11.7%
4. 3歳	31	14.5%
5. 4歳	41	19.2%
6. 5歳	39	18.2%
7. 6歳	27	12.6%
8. 小学生以上	22	10.3%

n=142

【読み取れること、ポイント】

- 年齢に偏りなく調査することができた。



《読み聞かせの実施状況》

【問2】お子さんに「読み聞かせ」をしていますか。

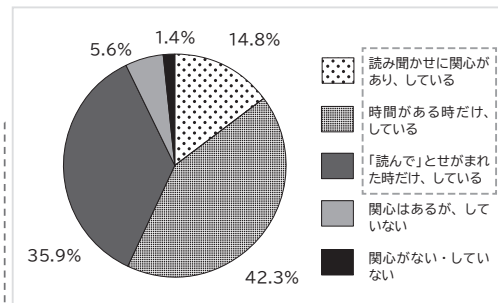
	（回答数）	（割合）
1. 読み聞かせに関心があり、している	21	14.8%
2. 時間のある時だけ、している	60	42.3%
3. 「読んで」とせがまれた時だけ、している	51	35.9%
4. 関心はあるが、していない	8	5.6%
5. 関心がない・していない	2	1.4%

n=142

【読み取れること、ポイント】

- 「関心がありしている」「時間のある時だけしている」「読んでとせがまれた時だけしている」を合わせると、93%が読み聞かせをしている。
- 「時間のある時だけしている（42%）」が最も多く、多忙な中にも時間を見つけて読み聞かせを行っていることがうかがえる。
- 「せがまれた時だけしている（36%）」に対して、「読み聞かせを通したコミュニケーション等の重要性」を今後も啓発していく必要がある。

補足 <別途分析>「せがまれた時だけ」と回答した半数が、週1回以上の読み聞かせをしていることがわかった。



《読み聞かせの頻度》

▶【問3】<【問2】で、1・2・3 と回答された方>

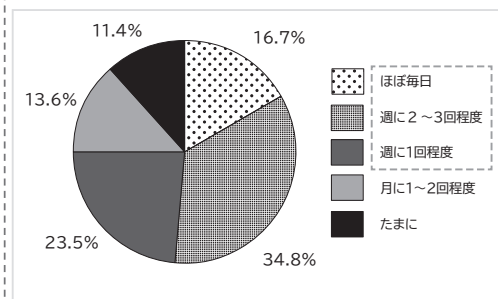
お子さんに「どのくらいの頻度」で、「読み聞かせ」をしていますか。

	（回答数）	（割合）
1. ほぼ毎日	22	16.7%
2. 週に2～3回程度	46	34.8%
3. 週に1回程度	31	23.5%
4. 月に1～2回程度	18	13.6%
5. たまに	15	11.4%

n=132

【読み取れること、ポイント】

- 「ほぼ毎日」「週に2～3回程度」「週に1回程度」を合わせると、75%が週1回以上の読み聞かせをしている。
- 「週に2～3回程度（35%）」が最も多く、次に「週に1回程度（24%）」と続く。「ほぼ毎日」が17%あり、熱心さがうかがえる。



《読み聞かせに使う本の調達》

▶【問4】<【問2】で、1・2・3 と回答された方>

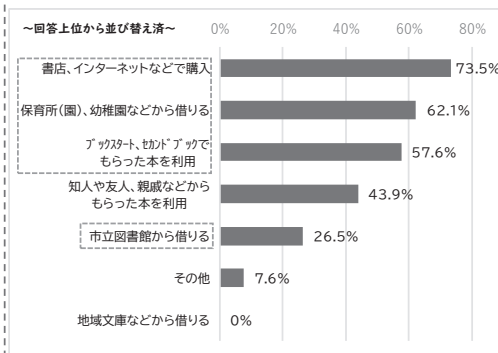
「読み聞かせ」に使う本は、「どのように用意」していますか。（複数回答）

	（回答数）	（割合）
1. 書店、インターネットなどで購入	97	73.5%
2. 知人や友人、親戚などからもらった本を利用	58	43.9%
3. アクスタ、セカドブックでもらった本を利用	76	57.6%
4. 市立図書館から借りる	35	26.5%
5. 保育所（園）、幼稚園などから借りる	82	62.1%
6. 地域文庫などから借りる	0	0%
7. その他	10	7.6%

n=132

【読み取れること、ポイント】

- 「書店、インターネットなどで購入」という借りに買わずに買う選択が最も多い。（74%）
- 「保育所（園）、幼稚園などから借りる（62%）」が多く、保育所等施設が取り組む読書活動の熱心さと、それを有効に活用する保護者の姿がうかがえる。
- 「ブックスタート、セカドブックでもらった本を利用（58%）」も多く、子ども読書の出会いの場として、今後も継続していきたい。
- 「市立図書館から借りる（27%）」は思いのほか少なく、乳幼児をもつ保護者が図書館に行く時間・手間、また館内での過ごし方等を懸念し、来館を控えている可能性がある。
- 「その他」では、「知育雑誌」「絵本の月刊誌」等があった。



「読み聞かせに使う本の情報収集」

▶【問5】<【問2】で、1・2・3 と回答された方>

「読み聞かせ」の本を選ぶ際、「参考にしているもの」は何ですか。(複数回答)

	(回答数)	(割合)
1. テレビ・インターネット	50	37.9%
2. 新聞・雑誌・本	15	11.4%
3. 書店	60	45.5%
4. 知人や友人、親戚などの紹介	30	22.7%
5. 保育所(園)、幼稚園などからの情報	51	38.6%
6. ブックスタート、絵本ブック配布時の「おすすめ本の冊子」	31	23.5%
7. 市立図書館や地域文庫などからの情報	12	9.1%
8. その他	32	24.2%

【読み取れること、ポイント】

- 「書店(46%)」「保育所(園)、幼稚園(39%)」「テレビ・インターネット(38%)」が多く、保護者が様々な媒体から情報を得ていることがわかる。
- これらに続く形となった「ブックスタート、絵本ブック配布時の「おすすめ本の冊子」(24%)」については、内容充実を含め更なる働きかけが必要である。
- 「その他」では、「子どもが選んだもの」「親が好きだった本」が主であった。

「読み聞かせを始めた時期」

▶【問6】<【問2】で、1・2・3 と回答された方>

お子さんへの「読み聞かせ」を「始めた時期」は、いつ頃ですか。

	(回答数)	(割合)
1. 生まれる前から	1	0.8%
2. 生まれてから6か月頃	66	50.0%
3. 7か月頃～11か月頃	33	25.0%
4. 1歳頃	26	19.7%
5. 2歳頃	6	4.5%
6. 3歳頃	0	0%
7. 4歳頃	0	0%
8. その他	0	0%

【読み取れること、ポイント】

- 「生まれてから6か月頃(50%)」「7か月頃～11か月頃(25%)」が多く、「ブックスタート事業(対象/6か月児)」は、0歳児からの絵本の出会いの場として有効であると考えられる。

「読み聞かせをしていない理由」

▶【問7】<【問2】で、4・5 と回答された方>

「読み聞かせ」をしていない、できない「理由」があれば教えてください。(複数回答)

	(回答数)	(割合)
1. 家に本がない	1	10.0%
2. 保育所(園)、幼稚園などで読んでもらっている	4	40.0%
3. 仕事や家事で忙しい	8	80.0%
4. どの本が良いかわからない	0	0.0%
5. まだ早いと思う	1	10.0%
6. 本を読む必要性を感じない	0	0.0%
7. お子さんが自分で読んでいる	3	30.0%
8. その他	2	20.0%

【読み取れること、ポイント】

- 「仕事や家事で忙しい(80%)」が最も多く、多忙な状況がうかがえる。
- 「保育所(園)、幼稚園などで読んでもらっている(40%、4・5・6歳児が主)」では、集団読書とは異なる、『保護者が絵本を通じて乳幼児へ言葉かけをすることの重要性』を啓発していく必要がある。
- 「お子さんが自分で読んでいる(30%、5・6歳児が主)」では、文字を追っただけで、内容をつかめていない可能性があることを懸念する。

「市立図書館に行く頻度」

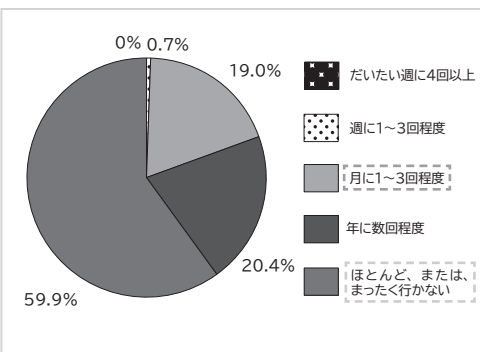
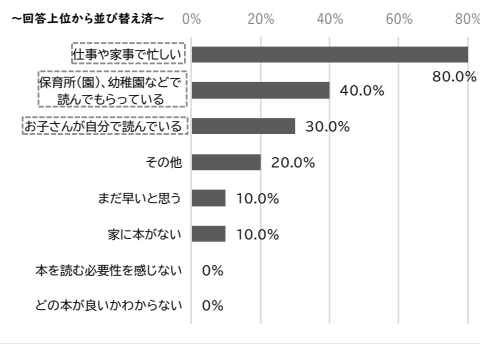
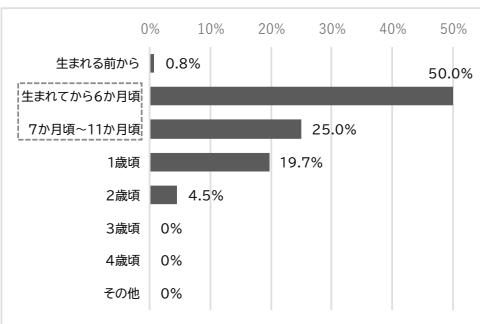
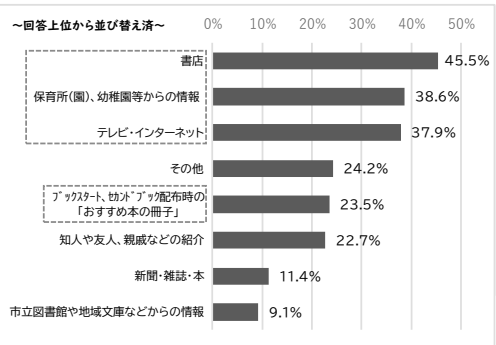
▶【問8】「お子さんのために」、市立図書館にどれくらい行きますか。

	(回答数)	(割合)
1. だいたい週に4回以上	0	0%
2. 週に1～3回程度	1	0.7%
3. 月に1～3回程度	27	19.0%
4. 年に数回程度	29	20.4%
5. ほとんど、または、まったく行かない	85	59.9%

【読み取れること、ポイント】

- 「ほとんど、または、まったく行かない」が6割と、図書館に行かない割合の方が行く人より多くなっているのが現状である。
- 一方で、「月に1～3回程度(19%)」「週に1～3回程度」の定期利用も見られる。
- 更なる利用を促すため、「図書資料の充実」はもとより、「来館のきっかけとなるイベント」の実施や「読書の素晴らしさや魅力」を発信し、「もっと本を読みたくなるような働きかけ」について、さらに検討を深めていく必要がある。

補足 <別添分析> 市立図書館に行く頻度が最も多いのは、3歳児(3割が「月に1～3回程度」となっていることがわかった。



＜市立図書館を利用しない理由＞

【問9】＜【問8】で、5と回答された方＞

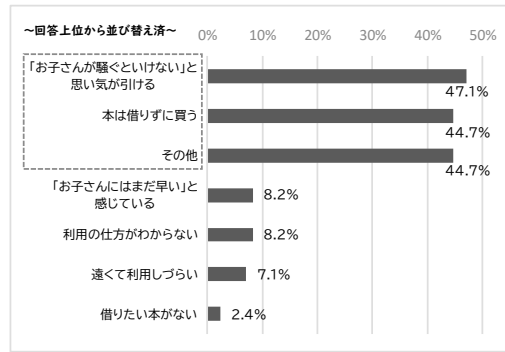
市立図書館を“利用しない理由”があれば教えてください。(複数回答)

	(回答数)	(割合)
1. 本は借りずに買う	38	44.7%
2. 借りたい本がない	2	2.4%
3. 利用の仕方がわからない	7	8.2%
4. 遠くて利用しづらい	6	7.1%
5. 「お子さんが騒ぐといけな」と思いが引ける	40	47.1%
6. 「お子さんにはまだ早い」と感じている	7	8.2%
7. その他	38	44.7%

n=85

【読み取れること、ポイント】

- 「お子さんが騒ぐといけなと思いが引ける(47%)」が最も多く、次いで「本は借りずに買う(45%)」「その他(45%)」と続く。
- 「その他」では、回答上位から、「図書館に行く時間がないから」「借りた本を汚してしまいうだから」「保育所等施設で借りているから」「コロナが気になるから」「他人が触れたものなので衛生的に不安だから」等があった。
- 「乳幼児連れの保護者が、気兼ねなく図書館を利用できるようにするためのしくみづくり(時間帯設定や場所の確保等)」の検討が必要である。



＜その他＞ 市立図書館に対して、“お気づきの点”や“ご意見”などがございましたら、ご自由にお書きください。

<項目>	<内容>	<対象児>	<読み聞かせ頻度>	<図書館利用頻度>
「図書資料の充実、配架の改善」関連	① 子どもが絵本を選ぶ際、表紙絵を見て決めるので、おすすめ本が本棚の上に飾ってあるので選びやすい。	3歳、小学生以上	週/2~3回	月/1~3回利用
	② 本好きの子どもなので、たくさんの本が借りれて助かっています。年齢が上がっても「おすすめ本のコーナー」があると嬉しい。	3歳	ほぼ毎日	月/1~3回利用
	③ DVDの種類を増やしてほしい。	3歳	週/1回	月/1~3回利用
	④ 児童書が古い。本棚が見にくい。「小学校低学年におすすめの本」を紹介してほしい。	3歳、小学生以上	ほぼ毎日	利用していない
	⑤ 児童書の展示が「赤ちゃん用とそれ以上」となっており、小学1年生は少し選びにくい。タイトルの五十音順ではなく「ジャンル別」の方がわかりやすくてよい。	3歳、小学生以上	週/2~3回	年/数回利用
	⑥ 児童書の本が探しにくい。書店や保育園の方がわかりやすい。	5歳	ほぼ毎日	月/1~3回利用
「お話し会やイベントの充実」関連	① 「お話し会」の時間を増やしてほしい。	3歳	週/1回	月/1~3回利用
	② 「赤ちゃんお話し会」は、「和室(交流館和室、こがめルーム)」で実施してほしい。	1歳、3歳	ほぼ毎日	月/1~3回利用
	③ 「おすすめ本のコーナー」を楽しみに来館しています。4歳の娘はここから選んで「ピプリオバトル本がますます好きになるような企画」があれば、ぜひ参加したい。	4歳、小学生以上	ほぼ毎日	月/1~3回利用
「施設環境の整備」関連	① いつも綺麗にされ気持ちよく過ごせています。もう少し雰囲気明るくても良いかなと思う。	4歳、小学生以上	週/1回	月/1~3回利用
	② 児童書の近くに低めのイスやソファがあると、子どもを座らせて本が選べて助かります。	2歳	週/2~3回	月/1~3回利用
	③ 「(借りた本をバックにしまう際に利用する)サッカー台」がもう1台あると助かります。	1歳、3歳	ほぼ毎日	月/1~3回利用
	④ コロナが気になるので「本の滅菌機」があると安心して借りれます。	4歳	週/1回	年/数回利用
	⑤ 子どもが騒ぎ周りに迷惑をかけるので遠慮してしまう。別室に「子どもエリア」があるとよい。	4歳	週/2~3回	利用していない
「サービス等の改善」関連	① コロナ禍ということもあり、「インターネットでの予約」や「宅配サービス」があるとよい。	2歳、5歳	ほぼ毎日	月/1~3回利用
	② 忙しく図書館に行けないので、「宅配サービス」があれば利用したい。	2歳	週/1回	利用していない
	③ 「予約できる本の冊数」をもっと増やしてほしい。	6歳	ほぼ毎日	週/1~3回利用
	④ 「読み聞かせの情報等」をまとめて、保育園等にもお知らせしてほしい。お話し会に参加してみたい。	3歳	週/1回	利用していない
	⑤ 利用したいと思うが、「利用者カードの作り方」「貸出し可能冊数や期間」がわからず行けていない。「乳幼児向け絵本の紹介やサービス内容のお知らせ」があれば行ってみようかと思う。	4歳、6歳	ほぼ毎日	利用していない
	⑥ 返却ポストが「JR古賀駅」「サンリブ古賀店」にあり、大変便利で助かります。	3歳、5歳	ほぼ毎日	月/1~3回利用
	⑦ 返却ポストを「JRしほふく駅」や「JR千鳥駅」にも設置してほしい。	6歳	週/2~3回	月/1~3回利用
	⑧ 子ども連れて本を選ぶのは結構大変なので、一度に3~6冊位がセットになった「本のおみくじの様なシステム」があればありがたい。	2歳児	ほぼ毎日	月/1~3回利用
	⑨ 「利用者カードをスマートフォンに表示」して利用できるようになれば便利。	1歳、4歳	週/2~3回	月/1~3回利用
	⑩ 「小学校や保育園への移動図書館」や、「利用ポイント制度」があれば良い。	3歳、5歳	週/2~3回	利用していない
その他	① ブックカートがあり、子ども連れでもまとめて本を借りれるので利用しやすい。	1歳、3歳	ほぼ毎日	月/1~3回利用
	② 0歳時からおはなし会に参加していました。今は保育園に行っているのになかなか参加できませんが、このようなイベントはありたく今後も続けてほしい。	1歳	週/1回	月/1~3回利用
	③ 緊急事態宣言による休館以降、行かなくなりました。子どもには本を読んであげたいので、また図書館に通いたい。	3歳	週/1回	年/数回利用
	④ 緊急事態宣言による休館中、電子書籍も考えたが、子どもには紙ベースで見たいと思いが引けなかった。	3歳、小学生以上	週/2~3回	月/1~3回利用
	⑤ コロナが気になってなかなか行けていませんが、子ども達は図書館が好きなのでまた利用させてもらいます。	4歳、5歳、小学生以上	月/1~2回	年/数回利用
	⑥ 私が学生の頃よく利用していたので、今度子ども達と行ってみたい。	2歳、6歳、小学生以上	週/2~3回	利用していない
	⑦ このアンケート調査を機会に利用したい。	4歳	週/2~3回	利用していない
	⑧ もう少し子どもの年齢が上がったら行ってみたい。	1歳	ほぼ毎日	利用していない
	⑨ (上の子が保育園児の時)図書館内で話し声が大きいことを何度か注意されたことを機に、親として穏やかな気持ちで利用できなくなった。本当は利用したいのですが…。	2歳	月/1~2回	利用していない
	⑩ 子どもは本は好きですが、借りた本を汚したり、破ったりしてしまいそうで心配です。	2歳	ほぼ毎日	利用していない
	⑪ 「保育所による図書館見学を欲しい、図書館は本を静かに読むところであることを教えてほしい。」	4歳	関心がない	利用していない

＜読書に関する意識＞

【問1】(小学6年生)

読書は好きですか。

	H28	R1(H31)
1. 好き	53.3%	41.9%
2. どちらかといえば好き	25.0%	32.2%
3. どちらかといえば好きではない	15.7%	15.5%
4. 好きではない	6.0%	10.4%

n=548 n=556

【読み取れること、ポイント】

- 読書が「好き」と回答した児童は、R1年度は42%で、「どちらかといえば好き(32%)」を合わせると74%が「好き」と回答。前回調査(78%)から減少している。
- 前回調査と比較すると、「好き」が減少(11ポイント)した一方で、「どちらかといえば好き」が増加(7ポイント)。「好きではない」が増加(4ポイント)している。

＜比較＞

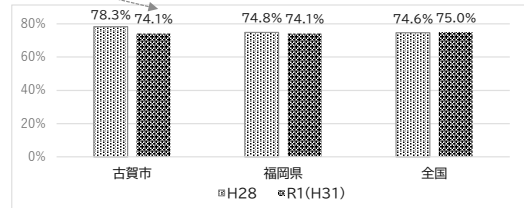
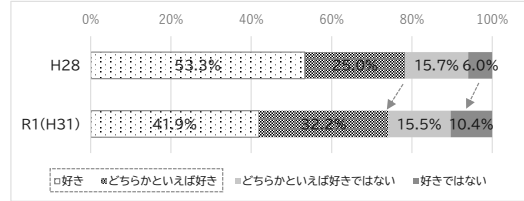
【問1】-① (小学6年生)

読書が好きな割合 ～【問1】で、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた割合～

	H28	R1(H31)
1. 古賀市	78.3%	74.1%
2. 福岡県	74.8%	74.1%
3. 全国	74.6%	75.0%

【読み取れること、ポイント】

- 古賀市では「読書が好きな割合」が減少(4ポイント)し、県及び全国平均とほぼ同水準となった。
- 県及び全国平均はほとんど変わらず、横ばい状態。



【問1】(中学3年生)

読書は好きですか。

	H28	R1(H31)
1. 好き	46.7%	43.7%
2. どちらかといえば好き	22.4%	32.0%
3. どちらかといえば好きではない	15.0%	17.3%
4. 好きではない	15.2%	7.0%
5. その他	0.7%	0%

n=580 n=503

【読み取れること、ポイント】

- 読書が「好き」と回答した児童は、R1年度は44%で、「どちらかといえば好き(32%)」を合わせると76%が「好き」と回答。前回調査(69%)から増加している。
- 前回調査と比較すると、「好き」が減少(3ポイント)した一方で、「どちらかといえば好き」が増加(10ポイント)。「好きではない」が減少(8ポイント)している。
- <<小学生との比較>> 「好き」「どちらかといえば好き」の割合は、小・中学生、ほぼ一致している。

＜比較＞

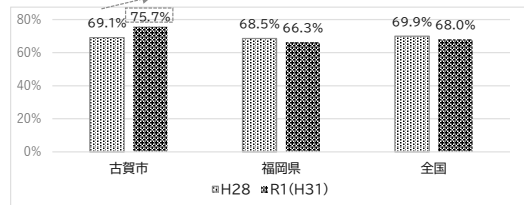
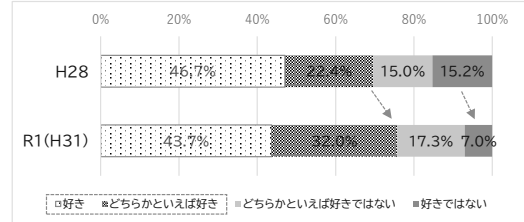
【問1】-① (中学3年生)

読書が好きな割合 ～【問1】で、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた割合～

	H28	R1(H31)
1. 古賀市	69.1%	75.7%
2. 福岡県	68.5%	66.3%
3. 全国	69.9%	68.0%

【読み取れること、ポイント】

- 古賀市では「読書が好きな割合」が増加(7ポイント)し、県及び全国平均を上回った。
- 県及び全国平均では、わずかながら減少している。



＜読書時間＞

【問2】(小学6年生)

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか。

	H28	R1(H31)	R3
1. 2時間以上	7.1%	6.7%	6.1%
2. 1～2時間	10.8%	11.0%	7.7%
3. 30分～1時間	16.1%	16.5%	17.8%
4. 10～30分	26.8%	24.8%	25.2%
5. 10分未満	15.5%	15.8%	14.9%
6. 全くしない	23.7%	25.2%	28.1%
7. その他	0%	0%	0.2%

n=548 n=556 n=556

【読み取れること、ポイント】

- 「10～30分」が最も多く、次いで「30分～1時間」「10分未満」「1～2時間」「2時間以上」の順となっており、1日に短時間でも読書をする習慣がついている児童が7割を超えている。
- 一方で、「全く読書をしない」割合は増加傾向にある。

＜比較＞

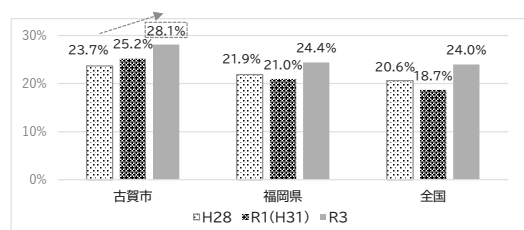
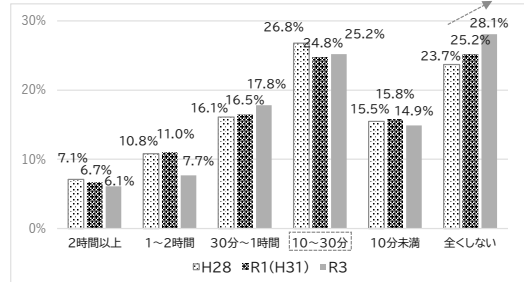
【問2】-① (小学6年生)

全く読書をしない割合(不読率)

	H28	R1(H31)	R3
1. 古賀市	23.7%	25.2%	28.1%
2. 福岡県	21.9%	21.0%	24.4%
3. 全国	20.6%	18.7%	24.0%

【読み取れること、ポイント】

- 古賀市の「全く読書をしない」割合は、県及び全国平均を上回る状態が続いている。
- R1年度に減少していた県及び全国平均も、R3年度では増加に転じている。



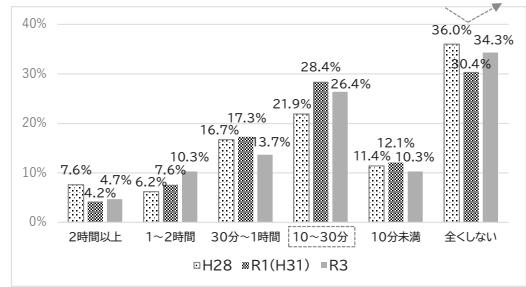
【問2】(中学3年生)

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。

	H28	R1(H31)	R3
1. 2時間以上	7.6%	4.2%	4.7%
2. 1～2時間	6.2%	7.6%	10.3%
3. 30分～1時間	16.7%	17.3%	13.7%
4. 10～30分	21.9%	28.4%	26.4%
5. 10分未満	11.4%	12.1%	10.3%
6. 全くしない	36.0%	30.4%	34.3%
7. その他	0.2%	0%	0.3%

【読み取れること、ポイント】

- 「10～30分」が最も多く、次いで「30分～1時間」「10分未満」「1～2時間」「2時間以上」の順となっており、1日に短時間でも読書をする習慣がついている生徒が6割を超えている。
- R1年度に減少していた「全く読書をしない」が増加に転じている。
- 部活動や家庭学習(塾を含む)等の時間が増加し、読書時間の確保が難しい状況にあるものと推測される。



【比較】

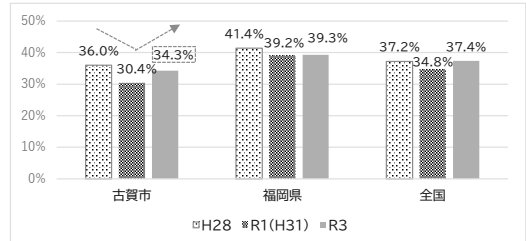
【問2】-① (中学3年生)

全く読書をしない割合(不読率)

	H28	R1(H31)	R3
1. 古賀市	36.0%	30.4%	34.3%
2. 福岡県	41.4%	39.2%	39.3%
3. 全国	37.2%	34.8%	37.4%

【読み取れること、ポイント】

- 古賀市の「全く読書をしない」割合は、県及び全国平均をやや下回っており、また中学進学により読書から離れる割合も比較的少ない。
- 古賀市、県及び全国平均、何れもR1年度は減少していたが、R3年度では増加に転じている。
- <<小学生との比較>> 不読率は、小学生の28%より、中学生は34%と高くなっている。



【図書館の利用状況】

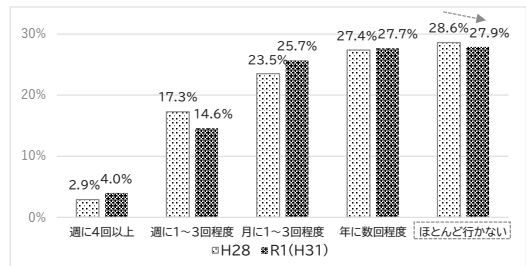
【問3】(小学6年生)

昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館にどれくらい行きますか。

	H28	R1(H31)
1. 週に4回以上	2.9%	4.0%
2. 週に1～3回程度	17.3%	14.6%
3. 月に1～3回程度	23.5%	25.7%
4. 年に数回程度	27.4%	27.7%
5. ほとんど行かない	28.6%	27.9%
6. その他	0.3%	0.1%

【読み取れること、ポイント】

- 7割を超える児童が定期的に図書館に通っており、この内、「週に1～3回」が減少したが、「週に4回以上」と「月に1～3回」が微増となった。
- 「ほとんど行かない」が28.6%と最も多いが、わずかながら減少している。



【比較】

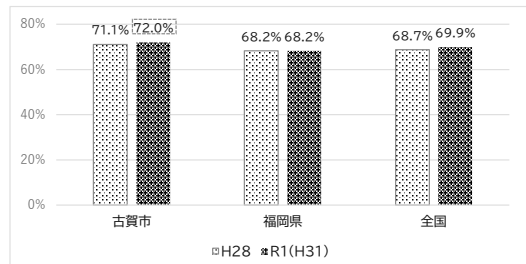
【問3】-① (小学6年生)

図書館に行く割合

	H28	R1(H31)
1. 古賀市	71.1%	72.0%
2. 福岡県	68.2%	68.2%
3. 全国	68.7%	69.9%

【読み取れること、ポイント】

- 古賀市の図書館に通う割合は、県及び全国平均を上回っている。
- この割合は、古賀市、県及び全国平均ともに3年間でほぼ変わらない。



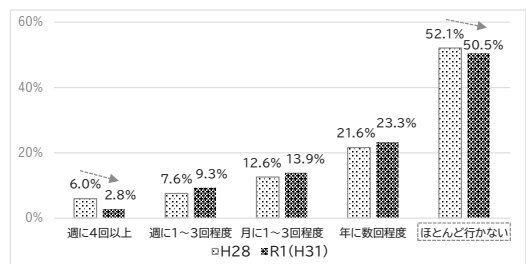
【問3】(中学3年生)

昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館にどれくらい行きますか。

	H28	R1(H31)
1. 週に4回以上	6.0%	2.8%
2. 週に1～3回程度	7.6%	9.3%
3. 月に1～3回程度	12.6%	13.9%
4. 年に数回程度	21.6%	23.3%
5. ほとんど行かない	52.1%	50.5%
6. その他	0.1%	0.2%

【読み取れること、ポイント】

- 生徒のほぼ半数が定期的に図書館に通っており、この内、「週に4回以上」が減少した一方で、他が増加した。
- 「ほとんど行かない」が51.1%と最も多いが、減少している。



「比較」

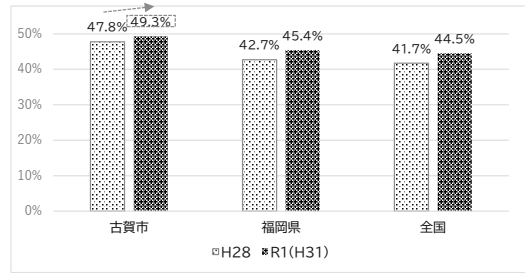
【問3】-① (中学3年生)

図書館に行く割合

	H28	R1(H31)
1. 古賀市	47.8%	49.3%
2. 福岡県	42.7%	45.4%
3. 全国	41.7%	44.5%

【読み取れること、ポイント】

- 古賀市の図書館に通う割合は、県及び全国平均を上回っている。
- 古賀市、県及び全国平均、何れも図書館に行く割合が増加している。
- 「小学生との比較」 図書館に行く割合は、中学生(ほぼ5割)が小学生(7割超)より低くなっている。



「(参考) ゲームの時間」

【問4】(小学6年生)

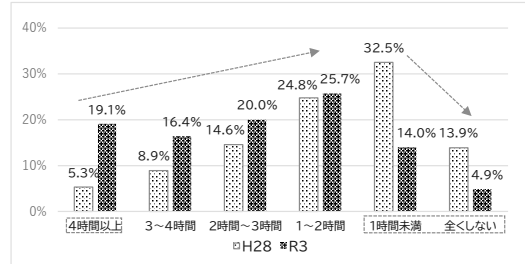
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか。

	H28	R3
1. 4時間以上	5.3%	19.1%
2. 3～4時間	8.9%	16.4%
3. 2時間～3時間	14.6%	20.0%
4. 1～2時間	24.8%	25.7%
5. 1時間未満	32.5%	14.0%
6. 全くしない	13.9%	4.9%

n=548 n=556

【読み取れること、ポイント】

- インターネット、スマートフォン等の普及により、ゲームをする時間が大幅に増えている。
- 特に「1時間未満(19ポイント減)」「全くしない(9ポイント減)」が大幅に減少。一方で「4時間以上(14ポイント増)」「3～4時間」「2～3時間」「1～2時間」の順に増



「比較」

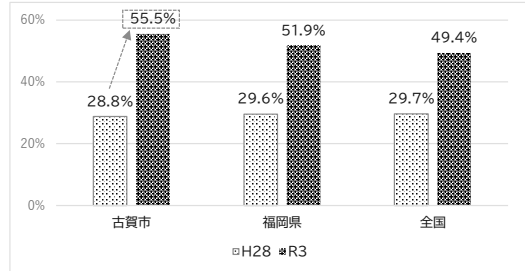
【問4】-① (小学6年生)

普段(月～金曜日)、1日当たり長時間(2時間以上)ゲームをする割合

	H28	R3
1. 古賀市	28.8%	55.5%
2. 福岡県	29.6%	51.9%
3. 全国	29.7%	49.4%

【読み取れること、ポイント】

- 古賀市では、「2時間以上ゲームをする」割合が大きく増え(27ポイント)、県及び全国平均を上回っている。



【問4】(中学3年生)

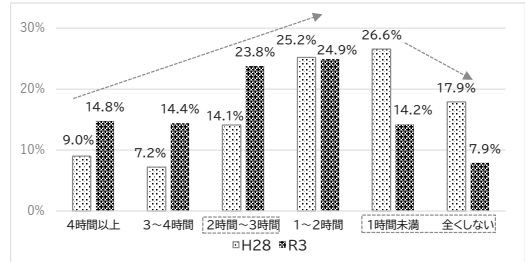
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか。

	H28	R3
1. 4時間以上	9.0%	14.8%
2. 3～4時間	7.2%	14.4%
3. 2時間～3時間	14.1%	23.8%
4. 1～2時間	25.2%	24.9%
5. 1時間未満	26.6%	14.2%
6. 全くしない	17.9%	7.9%

n=580 n=466

【読み取れること、ポイント】

- インターネット、スマートフォン等の普及により、ゲームをする時間が小学生と同様、大幅に増えている。
- 特に「1時間未満(12ポイント減)」「全くしない(10ポイント減)」が大幅に減少。一方で「2～3時間(10ポイント増)」「3～4時間」「4時間以上」「1～2時間」の順に増加。
- 「小中学生を通して」小中学生ともに、「1時間未満」「全くしない」が大幅に減少し、「2時間以上」が大幅に増加している。



「比較」

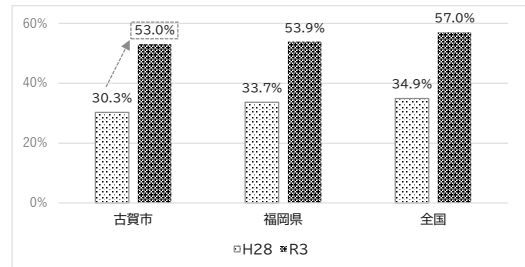
【問4】-① (中学3年生)

普段(月～金曜日)、1日当たり長時間(2時間以上)ゲームをする割合

	H28	R3
1. 古賀市	30.3%	53.0%
2. 福岡県	33.7%	53.9%
3. 全国	34.9%	57.0%

【読み取れること、ポイント】

- 古賀市では、「2時間以上ゲームをする」割合が大きく増えたが(23ポイント)、県及び全国平均よりはやや下回っている。
- 「小中学生全体を通して」ゲームやインターネットなどをやる時間をコントロールしながら、望ましい生活習慣を作り、読書の時間を確保していく働きかけが重要と考える。



■各校の「学校図書館要覧」／調 【対象】小学生、中学生

◀図書館の利用状況▶

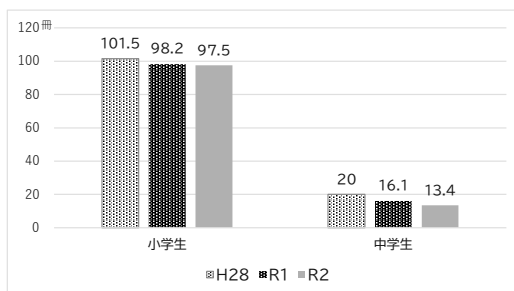
■ 児童生徒1人当たりの年間貸出冊数

	H28	R1	R2
1. 小学生	101.5	98.2	97.5
2. 中学生	20.0	16.1	13.4

注:新型コロナウイルスの影響により臨時休校
(R1年度:R2.3月の約30日間、R2年度:4～5月の約50日間)

〔読み取れること、ポイント〕

- 小学生は「年間読書目標」の設定もあって、年間で「100冊」程度、中学生は「20冊弱」程度を貸出している状況。
- R1年度、R2年度共に臨時休校期間があったものの、これ以前と比べて貸出冊数が大幅に減少することはなかった。



■子ども読書活動等に関するアンケート調査結果〔概況〕 【対象】高校生

〈対象数〉209人 〈回答数〉195人 ※回収率 93.3%

※「複数回答とした設問(問2・3・9)」では、設問に対する回答者数を分母として選択肢毎の割合を算出した。(回答比率の合計が100%を上回る場合あり)

「読書に対する意識」

【問1】読書は好きですか。

	〈回答数〉	〈割合〉
1. 好き	67	34.4%
2. どちらかといえば好き	82	42.0%
3. どちらかといえば好きではない	33	16.9%
4. 好きではない	13	6.7%

n=195

【読み取れること、ポイント】

- 読書が「好き」と回答した生徒は全体の34%で、「どちらかといえば好き(42%)」を合わせると、**76%が「好き」と回答**。

「比較」前回調査(H28)との比較

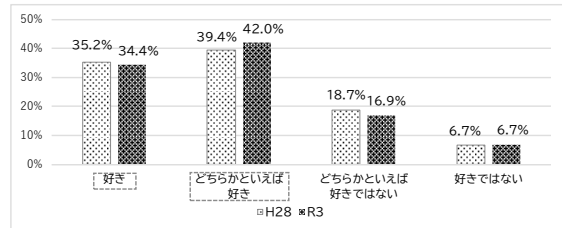
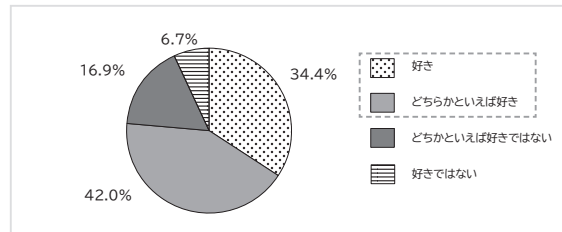
	H28	R3
1. 好き	35.2%	34.4%
2. どちらかといえば好き	39.4%	42.0%
3. どちらかといえば好きではない	18.7%	16.9%
4. 好きではない	6.7%	6.7%

n=193

n=195

【読み取れること、ポイント】

- 読書が「好き」「どちらかといえば好き」と回答した割合(76%)は、**前回調査(75%)とほぼ変わらない**。



※ここからは「紙の本(マンガや雑誌、新聞、教科書や参考書は除く)」による「読書」についてお聞きします。

「本の選び方」

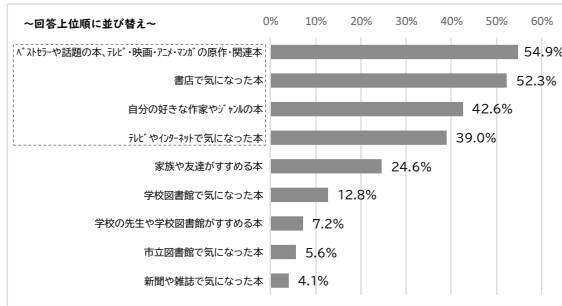
【問2】「どのような本」を読んでいますか。(複数回答)

	〈回答数〉	〈割合〉
1. 書店で気になった本	102	52.3%
2. テレビやインターネットで気になった本	76	39.0%
3. 新聞や雑誌で気になった本	8	4.1%
4. 市立図書館で気になった本	11	5.6%
5. 学校図書館で気になった本	25	12.8%
6. ネットや話題の本、テレビ・映画・アニメ・マンガの原作・関連本	107	54.9%
7. 自分の好きな作家やジャンルの本	83	42.6%
8. 家族や友達がすすめる本	48	24.6%
9. 学校の先生や学校図書館がすすめる本	14	7.2%

n=195

【読み取れること、ポイント】

- 「**ネットや話題の本、テレビ・映画・アニメ・マンガの原作・関連本**」「**自分の好きな作家やジャンルの本**」「**テレビやインターネットで気になった本**」が多く、**学校や図書館以外の場で情報収集している様子**がうかがえる。
- また「**書店で気になった本**」も多く、**実際に書店に足を運んでいる様子**もうかがえる。



「本を読む場所」

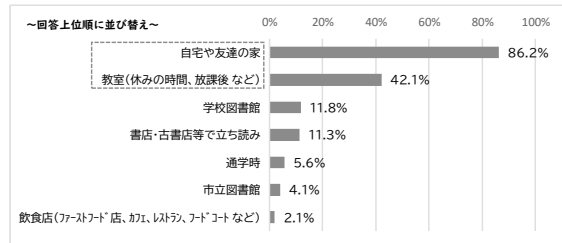
【問3】「どのような場所」で本を読みますか。(複数回答)

	〈回答数〉	〈割合〉
1. 自宅や友達の家	168	86.2%
2. 市立図書館	8	4.1%
3. 学校図書館	23	11.8%
4. 教室(休みの時間、放課後 など)	82	42.1%
5. 通学時	11	5.6%
6. 飲食店(ファストフード店、カフェ、レストラン、フードコート など)	4	2.1%
7. 書店・古書店等で立ち読み	22	11.3%

n=195

【読み取れること、ポイント】

- 「**自宅や友達の家**」が**86%**と最も多く、**次いで「教室」が42%**となっており、「**図書館**」等て読む割合より多くなっている。



「学校図書館の利用状況」

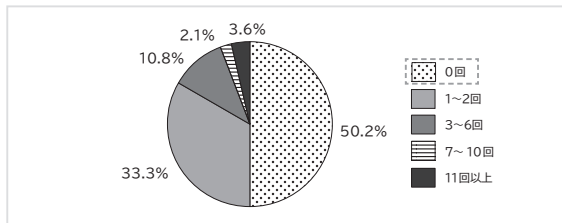
【問4】「先月(令和3年10月、1か月の間)」に、「学校の図書館」に何回行きましたか。

	〈回答数〉	〈割合〉
1. 0回	98	50.2%
2. 1~2回	65	33.3%
3. 3~6回	21	10.8%
4. 7~10回	4	2.1%
5. 11回以上	7	3.6%

n=195

【読み取れること、ポイント】

- 「**0回(学校図書館を利用していない)**」が**半数**、次いで月に「**1~2回(33%)**」「**3~6回(11%)**」と続く。



「比較」前回調査(H28)との比較

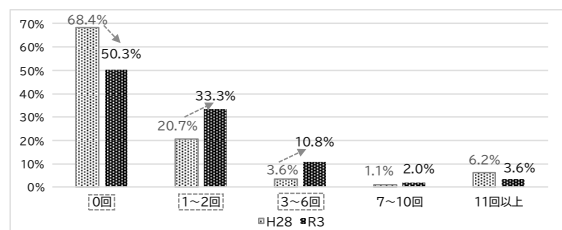
	H28	R3
1. 0回	68.4%	50.3%
2. 1~2回	20.7%	33.3%
3. 3~6回	3.6%	10.8%
4. 7~10回	1.1%	2.0%
5. 11回以上	6.2%	3.6%

n=193

n=195

【読み取れること、ポイント】

- 前回調査と比べ、「**0回**」が**大幅に減少(18ポイント)**し、月に「**1~2回(13ポイント増)**」「**3~6回(7ポイント増)**」となったことから、**学校図書館に定期的に通う生徒が増えている**。



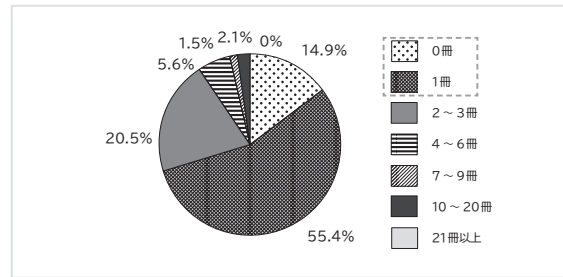
「読書冊数」

【問5】先月、1か月の間に、本を「何冊」読みましたか。
※同じ本を2回読んだ場合は、2冊と数えてください

	(回答数)	(割合)
1. 0冊	29	14.9%
2. 1冊	108	55.4%
3. 2～3冊	40	20.5%
4. 4～6冊	11	5.6%
5. 7～9冊	3	1.5%
6. 10～20冊	4	2.1%
7. 21冊以上	0	0%

【読み取れること、ポイント】

● 8割を超える生徒が本を読み、この内「1冊」が56%と最も多く、次いで「2～3冊(21%)」「4～6冊(6%)」と続いている。「0冊(読まなかった)」は15%となっている。
補足 <別途分析> 【問1】で「読書が好きではない、どちらかといえば好きではない」と回答した生徒の67%が「1冊以上」の本を読んでいることがわかった。

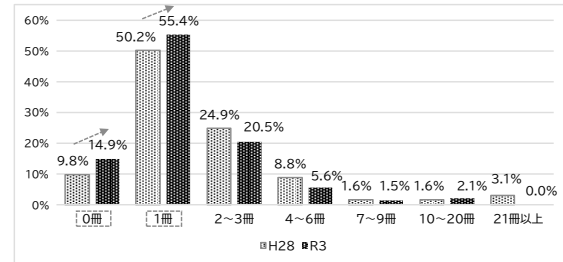


「比較」前回調査(H28)との比較

	H28	R3
1. 0冊	9.8%	14.9%
2. 1冊	50.2%	55.4%
3. 2～3冊	24.9%	20.5%
4. 4～6冊	8.8%	5.6%
5. 7～9冊	1.6%	1.5%
6. 10～20冊	1.6%	2.1%
7. 21冊以上	3.1%	0.0%

【読み取れること、ポイント】

● 前回調査と比べ、「0冊(読まなかった)」が増加(5ポイント)。「1冊」が増加(5ポイント)した一方で、「2～3冊」「4～6冊」「21冊以上」はそれぞれ減少している。



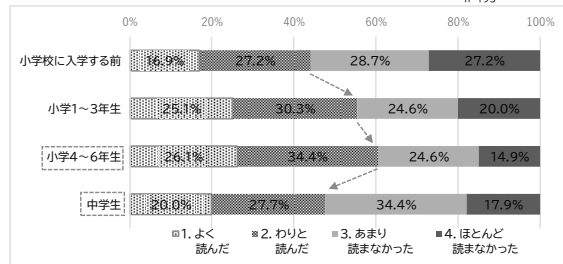
「幼少期からの読書量の変化」

【問6】これまでを振り返って、「小学校に入学する前」「小学1～3年生」「小学4～6年生」「中学生」それぞれ時代に、「どれくらいの本」を読みましたか。

	(回答数)				(割合)			
	1. よく読んだ	2. わりと読んだ	3. あまり読まなかった	4. ほとんど読まなかった	1. よく読んだ	2. わりと読んだ	3. あまり読まなかった	4. ほとんど読まなかった
① 小学校に入学する前	33	53	56	53	16.9%	27.2%	28.7%	27.2%
② 小学1～3年生	49	59	48	39	25.1%	30.3%	24.6%	20.0%
③ 小学4～6年生	51	67	48	29	26.1%	34.4%	24.6%	14.9%
④ 中学生	39	54	67	35	20.0%	27.7%	34.4%	17.9%

【読み取れること、ポイント】

～「高校生自身の主観、振り返りに基づく回答」であることに留意～
● 「よく読んだ」「わりと読んだ」が最も多いのは、「小学4～6年生の時(61%)」となっている。
● 「よく読んだ」「わりと読んだ」を合わせた読書量は、小学校高学年まで増加するが、中学生になると減少してしまうことがわかる。
● 中学生になると、部活動や家庭学習(塾を含む)等の時間が増加し、読書時間の確保が難しい状況にあるものと推測される。



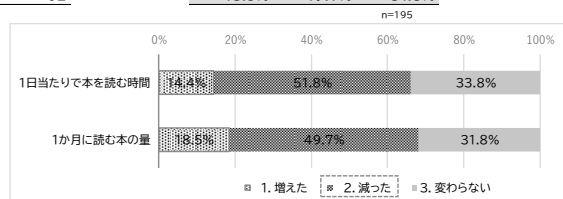
「高校生になってからの読書量の変化」

【問7】「中学生の時」と比べて、高校生になって「本を読む時間や本の量」は変わりましたか。

	(回答数)			(割合)		
	1. 増えた	2. 減った	3. 変わらない	1. 増えた	2. 減った	3. 変わらない
① 1日当たりで本を読む時間	28	101	66	14.4%	51.8%	33.8%
② 1か月に読む本の量	36	97	62	18.5%	49.7%	31.8%

【読み取れること、ポイント】

～「高校生自身の主観、振り返りに基づく回答」であることに留意～
● 中学生の時と比べて高校生になってからの読書量は、「読む時間」「本の量」ともに「減った」との回答がほぼ半数となっている。
● 一方で、「増えた」と回答した生徒が2割近くいることがわかる。
補足 <別途分析> 「増えた」と回答した生徒のほとんどは、「自宅や友人の家」「教室」で読書をし、この内68%は、これは別に「電子書籍も読んでいる」ということがわかった。



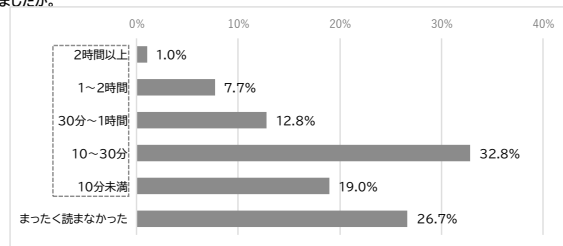
「読書時間」

【問8】先月、1か月の間に、「平日(学校の授業時間以外)」、「1日当たりどれくらいの時間」本を読みましたか。

	(回答数)	(割合)
1. 2時間以上	2	1.0%
2. 1～2時間	15	7.7%
3. 30分～1時間	25	12.8%
4. 10～30分	64	32.8%
5. 10分未満	37	19.0%
6. まったく読まなかった	52	26.7%

【読み取れること、ポイント】

● 読書時間は「10～30分」が33%と最も多く、次いで「10分未満」「30分～1時間」「1～2時間」と続いている。「まったく読まなかった」は、27%となっている。
補足 <別途分析> 「短時間(30分未満)の読書をしている生徒」が本を読む場所は、「自宅・友達の家が8割強」「教室」が4割強となっており、(勉強や部活動等で多量に)まとまった時間は取れなくても、空き時間を見つけて読書に動む様子が見られる。



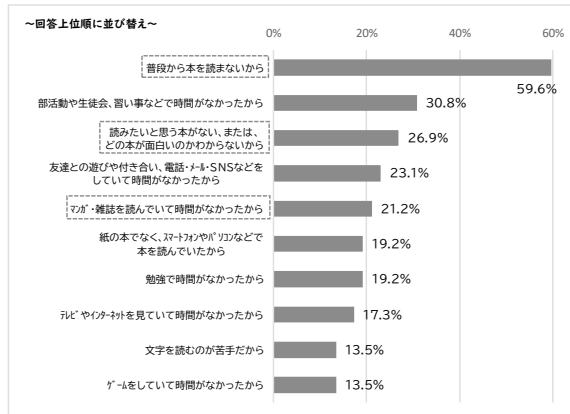
「本を読まなかった理由」

【問9】 <【問8】で「6. まったく読まなかった」と回答した方のみ>
 「本を読まなかった理由」があれば教えてください。(複数回答)

	回答数	割合
1. 勉強で時間がなかったから	10	19.2%
2. 部活動や生徒会、習い事などで時間がなかったから	16	30.8%
3. 友達との遊びや付き合い、電話・メール・SNSなどをしていて時間がなかったから	12	23.1%
4. テレビやインターネットを見ていて時間がなかったから	9	17.3%
5. ゲームをしていて時間がなかったから	7	13.5%
6. マガ・雑誌を読んでいて時間がなかったから	11	21.2%
7. 紙の本でなく、スマートフォンやPCなどで本を読んでいたから	10	19.2%
8. 読みたいと思う本がない、または、どの本が面白いかわからないから	14	26.9%
9. 文字を読むのが苦手だから	7	13.5%
10. 普段から本を読まないから	31	59.6%

【読み取れること、ポイント】

- 本を読まなかった理由で最も多いのは、「普段から本を読まないから(60%)」であり、本を読む習慣が身につけていない生徒が多い。
- 「読みたいと思う本がない、どの本が面白いかわからないから(27%)」また「マガ・雑誌を読んでいたから(21%)」との回答が多く、興味関心に合う本が身近にないことを理由に、本を読まない生徒が多い。



※次に「電子書籍(マンガや雑誌、新聞、参考書等を含む)」による「読書」についてお聞きします。

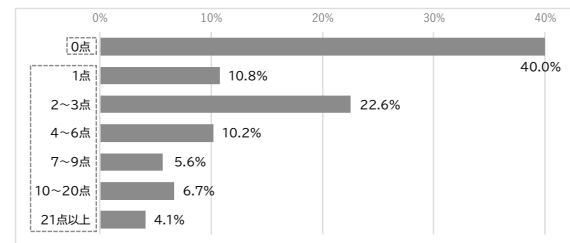
「電子書籍の利用状況(読んだ点数)」

【問10】 先月、1か月の間に、「電子書籍」を「何点」読みましたか。

	回答数	割合
1. 0点	78	40.0%
2. 1点	21	10.8%
3. 2~3点	44	22.6%
4. 4~6点	20	10.2%
5. 7~9点	11	5.6%
6. 10~20点	13	6.7%
7. 21点以上	8	4.1%

【読み取れること、ポイント】

- 「0点(読まなかった)」が40%となっている一方で、「読んだ」は6割となっており、電子書籍はある程度浸透していることがわかる。
- <別途分析> 「10点以上」と回答した生徒が電子書籍を読んだ場所は、「自宅や友達の家(81%)」「教室(57%)」「書店・古本屋等(33%)」であることがわかった。
- <【問5】紙の本との比較> 「紙の本」を読まず「電子書籍」だけ読んだ生徒は45%となっている。



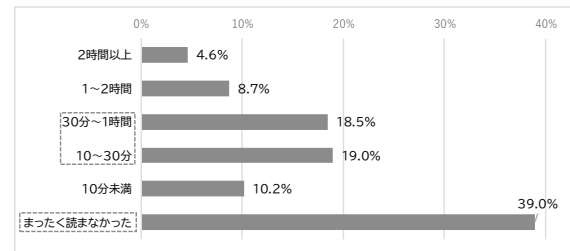
「電子書籍の利用状況(読書時間)」

【問11】 先月、1か月の間に、「電子書籍」を1日当たり、「どれくらいの時間」読みましたか。

	回答数	割合
1. 2時間以上	9	4.6%
2. 1~2時間	17	8.7%
3. 30分~1時間	36	18.5%
4. 10~30分	37	19.0%
5. 10分未満	20	10.2%
6. まったく読まなかった	76	39.0%

【読み取れること、ポイント】

- 「まったく読まなかった」が39%と最も多く、次いで「10~30分」「30分~1時間」(共に19%)と続く。「2時間以上」は5%となっている。
- <【問8】紙の本との比較> 「30分以上の読書内容」としては、「電子書籍(32%)」の方が「紙の本(22%)」より多くなっている。~マンガや雑誌が対象に含まれていることに留意~



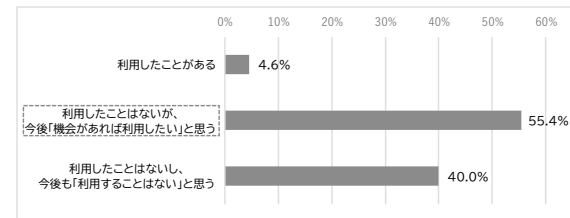
「古賀市の電子図書館の利用状況等」

【問12】 古賀市立図書館の「電子図書館」は、令和3年3月からサービスを開始しています。が、「利用したことがありますか」また「今後利用したい」と思いますか。

	回答数	割合
1. 利用したことがある	9	4.6%
2. 利用したことはないが、今後「機会があれば利用したい」と思う	108	55.4%
3. 利用したことはないし、今後も「利用することはない」と思う	78	40.0%

【読み取れること、ポイント】

- 「利用したことがある」は5%で、広く浸透していない状況がうかがえる。
- 「利用したことはないが、今後機会があれば利用したいと思う」と回答した生徒が56%あり、今後利用拡大に向けた周知など働きかけが必要と考えられる。



※次に「高校生の読書量を増やしていくためのアイデア」についてお聞きします。

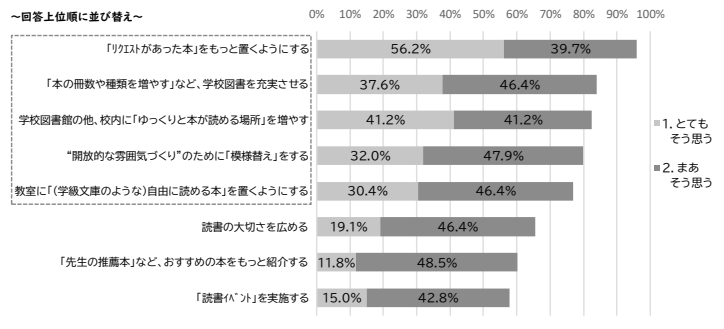
◀学校図書館をもっと利用したくなるために必要なこと>

【問13】どのようにすれば、あなたは「もっと学校図書館を利用したくなる」と思いますか。

	(回答数)				(割合)			
	1.とても そう思う	2.まあ そう思う	3.あまり そう思わない	4.そう 思わない	1.とても そう思う	2.まあ そう思う	3.あまり そう思わない	4.そう 思わない
① 「本の冊数や種類を増やす」など、学校図書を充実させる	73	90	25	6	37.6%	46.4%	12.9%	3.1%
② 「リクエストがあった本」をもっと置くようにする	109	77	5	3	56.2%	39.7%	2.6%	1.5%
③ 「先生の推薦本」など、おすすめの本をもっと紹介する	23	94	65	12	11.8%	48.5%	33.5%	6.2%
④ 「読書イベント」を実施する	29	83	66	16	15.0%	42.8%	34.0%	8.2%
⑤ 読書の大切さを広める	37	90	51	16	19.1%	46.4%	26.3%	8.2%
⑥ 「開放的な雰囲気づくり」のために「模様替え」をする	62	93	31	8	32.0%	47.9%	16.0%	4.1%
⑦ 教室に「(学級文庫のような)自由に読める本」を置くようにする	59	90	39	6	30.4%	46.4%	20.1%	3.1%
⑧ 学校図書館の他、校内に「ゆっくりと本が読める場所」を増やす	80	80	30	4	41.2%	41.2%	15.5%	2.1%

【読み取れること、ポイント】

- 「リクエストがあった本(96%)」や「冊数や種類の増(84%)」といった『図書資料の充実』が最も多く、次いで「図書館以外でゆっくりと本が読める場所の整備(82%)」や「図書館の開放的な雰囲気づくり(80%)」、「教室内文庫の整備(77%)」の順となっている。
- 高校生が好きな本などを手に取りやすく、また読みやすい場所等の環境を整えることが求められている。



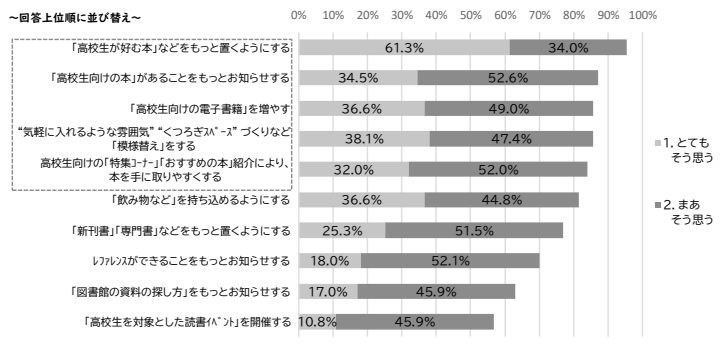
◀市立図書館をもっと利用したくなるために必要なこと>

【問14】どのようにすれば、あなたは「もっと市立図書館を利用したくなる」と思いますか。

	(回答数)				(割合)			
	1.とても そう思う	2.まあ そう思う	3.あまり そう思わない	4.そう 思わない	1.とても そう思う	2.まあ そう思う	3.あまり そう思わない	4.そう 思わない
① 「新刊書」「専門書」などをもっと置くようにする	49	100	33	12	25.3%	51.5%	17.0%	6.2%
② 「高校生が好む本」などをもっと置くようにする	119	66	5	4	61.3%	34.0%	2.6%	2.1%
③ 「高校生向けの電子書籍」を増やす	71	95	22	6	36.6%	49.0%	11.3%	3.1%
④ 「高校生向けの本」があることをもっとお知らせする	67	102	20	5	34.5%	52.6%	10.3%	2.6%
⑤ 高校生向けの「特集コーナー」「おすすめの本」紹介により、本を手に取りやすくする	62	101	25	6	32.0%	52.0%	12.9%	3.1%
⑥ リアルができることをもっとお知らせする	35	101	50	8	18.0%	52.1%	25.8%	4.1%
⑦ 「図書館の資料の探し方」をもっとお知らせする	33	89	58	14	17.0%	45.9%	29.9%	7.2%
⑧ 「高校生を対象とした読書イベント」を開催する	21	89	67	17	10.8%	45.9%	34.5%	8.8%
⑨ 「気軽に入れるような雰囲気」「くつろぎスペース」づくりなど「模様替え」をする	74	92	24	4	38.1%	47.4%	12.4%	2.1%
⑩ 「飲み物など」を持ち込めるようにする	71	87	25	11	36.6%	44.8%	12.9%	5.7%

【読み取れること、ポイント】

- 「高校生が好む本(95%)」や「高校生向けの電子書籍(86%)」といった『図書資料の充実』に加え、「高校生向けの本があることのお知らせ(87%)」、「特集コーナーやおすすめの本の紹介(84%)」といった『読書へ興味を引き出すような情報の提供など効果的な働きかけ』が求められている。
- 「気軽に入りにくくて、くつろげるような環境の整備(86%)」も求められている。



《参考資料》④ 読書ボランティア団体一覧

	団体名	活動場所	主な活動内容
子どもの読書研究団体	こが語りの会	市内小・中学校 市立図書館 古賀特別支援学校	・小・中学校でのおはなし会 ・中学校での朝の読み聞かせ ・「どうようおはなし会」 ・特別支援学校でのおはなし会
	古賀子どもの本の交流会		・小・中学校でのおはなし会 ・「どうようおはなし会」 ・保育所(園)・公民館でのおはなし会 ・読書講演会 ・アンビシャス運動支援助成事業 ・子どもわくわくフェスタ ・科学実験教室 ・子育てサロン ・子どもゆめ基金助成事業 ほか
地域文庫	あすなる文庫	花鶴丘3丁目区公民館 市立図書館	・文庫活動(読み聞かせ、本の貸出し、季節の行事)
	こじか文庫	鹿部区公民館 市立図書館	・文庫活動(読み聞かせ、本の貸出し、季節の行事)
	コスモス文庫	米多比児童館 市立図書館	・文庫活動(読み聞かせ、本の貸出し、季節の行事)
	しらさぎ文庫	都筵内会館 市立図書館	・文庫活動(読み聞かせ、本の貸出し、季節の行事)
	たけのこ文庫	公務員宿舍古賀住宅集会所 千鳥小学校 市立図書館	・文庫活動(読み聞かせ、本の貸出し、季節の行事) ・アンビシャス広場としての活動
	星の子文庫	舞の里5区集会所 市立図書館、保育所(園) 病院、各種施設	・文庫活動(読み聞かせ、本の貸出し、季節の行事) ・アンビシャス広場としての活動 ・劇団活動(コロナ禍のため休止中)
図書館ボランティア	布の絵本ボランティア つくしんぼ	市立図書館	・布の絵本制作 ・エプロンシアター制作 ・市立図書館内のタペストリー制作 ・布絵本講座講師
読書ボランティア団体	おはなし会ボランティア こがめ	市立図書館	・「どうようおはなし会」
	おはなし会ボランティア 咲の会	市立図書館	・「どうようおはなし会」
	赤ちゃんおはなし会 ピヨピヨ	市立図書館	・「赤ちゃんおはなし会」
	小さい子のおはなし会 わにわに	市立図書館	・「小さい子のおはなし会」



	団体名	活動場所	主な活動内容
読書ボランティア団体	古賀東小学校 ぐりとぐらの会	古賀東小学校	・朝の読み聞かせ ・授業中、昼休みのおはなし会 ・学校のフェスタでの出し物
	花見小学校ボランティア まつぼっくり	花見小学校	・朝の読み聞かせ
	青柳小学校 おはなしの木	青柳小学校	・朝の読み聞かせ
	小さな野原の会	小野小学校	・朝の読み聞かせ
	舞小ぐるんぱ 読み聞かせの会	舞の里小学校	・朝の読み聞かせ
	花鶴小学校ボランティア こんべいとう	花鶴小学校	・朝の読み聞かせ ・昼休みのおはなし会
	古賀西小学校 おひさま	古賀西小学校	・朝の読み聞かせ
	北中見つめるタイム 読み聞かせの会	古賀北中学校	・朝の読み聞かせ
	花鶴丘幼稚園 にじのおと	花鶴丘幼稚園	・幼稚園での読み聞かせ
	朱鷺（とき）の会	障害者支援施設 「なのみの里」	・大型絵本や紙芝居の読み聞かせ
	古賀市紙芝居サークル カチカチ会	市内福祉施設 各学童保育所、各公民館	・紙芝居作成及び上演活動
地域の活動団体	久保西区サロン活動	久保西区公民館	・本棚設置による読書の環境づくり
	花見東1区福祉会 「おひざ DE だっこ」	花見東1区公民館	・0～2歳と保護者へのおはなし会
	花見東2区子育てサロン 「おんぶらーじゅ」	花見東2区公民館	・未就園児と保護者対象の子育てサロン ・高齢者との世代間交流 ・読書ボランティアによるおはなし会
	鹿部子育てサロン	鹿部区公民館	・0～3歳と保護者対象の子育てサロン ・絵本の読み聞かせ

《参考資料》⑤ 子ども読書活動に関連する主な出来事

「古賀市の図書館の礎を築いた^{すすきじよいち}薄 恕一さん」

筵内出身の薄 恕一氏は、大阪にて苦学の末、医師となってからは、貧富の差なく人々の医療に尽くしました。「今の自分があるのは、必要な本を読ませてくれた周りの人達のおかげだ」と思い、郷土古賀の人々のために、大正12(1923)年に席内(むしろうち)尋常高等小学校(現在の古賀東小学校)に村民が利用できる「薄図書館」を建設し寄贈、人々の生活の中に読書を根づかせる礎を築きました。

この図書館は、昭和20(1945)年に閉館となりましたが、心豊かな子どもを育むため、読書の必要性を感じた保護者達は、その後の学校図書館の設置に伴い、本や書棚を充実させ、それを整理し提供する学校司書の配置を進めるための資金を提供しました。

昭和48(1973)年には、福岡県下では2館目となる「古賀町立図書館」が開館しました。

市となってからも、学校図書館の読書環境整備等をはじめ、子どもの読書活動の積極的な取組が進められています。

主な歴史

学校が中心となり子ども読書活動が始まった

- 大正12(1923)年 ●席内村立図書館(薄図書館)創立
- 昭和8(1933)年 ◎文部省より席内村立図書館表彰
- 昭和20(1945)年 ●終戦により薄図書館廃館
- 昭和22(1947)年 ●学校教育法により町内各小・中学校に学校図書館を設置、活発な活動が始まる
- 昭和31(1956)年 ◎古賀中学校「第1回全九州学校図書館コンクール優秀賞」
- 昭和33(1958)年 ◎古賀東小学校「第3回全九州学校図書館コンクール優秀賞」
◎古賀東小学校「第4回全九州学校図書館コンクール優秀賞」
- 昭和34(1959)年 ◎古賀中学校「第4回全九州学校図書館コンクール文部大臣賞」
- 昭和36(1961)年 ●古賀東小学校で「母と子の読書会」が始まり、町内全小学校に広がる
◎小野小学校「第6回全九州学校図書館コンクール優秀賞」
- 昭和37(1962)年 ◎古賀東小学校「第7回青少年読書感想文全国コンクール最優秀賞」(総理大臣賞)
●「古賀町母と子の読書会」結成
- 昭和40(1965)年 ◎小野小学校「第9回西日本読書感想文コンクール優秀賞」
- 昭和41(1966)年 ◎古賀東小学校「第12回青少年読書感想文全国コンクール最優秀賞」
- 昭和42(1967)年 ◎古賀東小学校「第13回青少年読書感想文全国コンクール最優秀賞」
- 昭和43(1968)年 ◎古賀東小学校「第14回青少年読書感想文全国コンクール最優秀賞」
- 昭和44(1969)年 ●「第1回古賀町親と子の読書のつどい」開催
- 昭和45(1970)年 ◎古賀東小学校「第15回全九州学校図書館コンクール優秀賞」(文部大臣賞)



- 昭和48(1973)年 ●司書正式配置開始(青柳小学校、小野小学校、町立図書館)
●古賀町立図書館 蔵書3,757冊で開館・館外貸出開始
- 昭和53(1978)年 ●「どようおはなし会」開始
●最初の地域文庫「たけのこ文庫」(公務員宿舍古賀住宅集会所)開設
- 昭和54(1979)年 ●かめのご文庫(花鶴丘団地)開設
- 昭和55(1980)年 ●れんげ草文庫(薦野公民館)開設
- 昭和59(1984)年 ●あすなろ文庫(花鶴丘3丁目区公民館)開設
- 昭和63(1988)年 ●ひばり文庫(青柳ひばりヶ丘集会所)開設
- 平成元(1989)年 ●しらすぎ文庫(都筵内会館)開設
- 平成2(1990)年 ●コスモス文庫(米多比児童館)開設
- 平成5(1993)年 ●こじか文庫(鹿部区公民館)開設
- 平成6(1994)年 ●古賀市立図書館移転開館 蔵書93,630冊で貸出開始(電算化)
●星の子文庫(舞の里5区集会所)開設
- 平成7(1995)年 ◎花鶴小学校「第39回西日本読書感想画コンクール優秀賞」
- 平成8(1996)年 ●「春のおはなし会(おはなし会スペシャル)」開催
●「第1回図書館まつり」開催
●「西日本読書感想画優秀作品展示会」開催
- 平成9(1997)年 ●「子ども映画会」開始
●「文庫まつり(秋のおはなし会スペシャル)」開催
- 平成11(1999)年 ◎小野小学校「第43回西日本読書感想画コンクール最優秀賞」(文部大臣奨励賞)
- 平成15(2003)年 ●ブックスタート事業開始(健康づくり課、こども政策課、市立図書館)
- 平成16(2004)年 ◎古賀東小学校「子どもの読書活動優秀実践学校の部 文部科学大臣表彰」
◎古賀市親子読書会「子どもの読書活動優秀実践団体の部 文部科学大臣表彰」
●市民の寄付による「こがめルーム」市立図書館に増設(36㎡)
- 平成17(2005)年 ◎千鳥小学校「第48回西日本読書感想画コンクール最優秀賞」(文部科学大臣奨励賞)
- 平成18(2006)年 ■「古賀市子ども読書活動推進計画(第1次)」策定
◎古賀市立図書館「子どもの読書活動優秀実践図書館の部 文部科学大臣表彰」
●「赤ちゃんおはなし会」開始
- 平成20(2008)年 ●「小さい子のおはなし会」開始
- 平成21(2009)年 ◎星の子文庫「子どもの読書活動優秀実践団体の部 文部科学大臣表彰」
●布の絵本ボランティア「つくしんぼ」発足
- 平成22(2010)年 ◎古賀子どもの本の交流会「子どもの読書活動優秀実践団体の部 文部科学大臣表彰」
- 平成23(2011)年 ●「赤ちゃんおはなし会」2部制開始
- 平成24(2012)年 ■「古賀市子ども読書活動推進計画(改訂=第2次)」策定
- 平成25(2013)年 ◎青柳小学校「第57回西日本読書感想画コンクール学校賞」
- 平成26(2014)年 ◎古賀西小学校「第60回全九州学校図書館コンクール優秀賞」
◎こが語りの会「子どもの読書活動優秀実践団体の部 文部科学大臣表彰」
◎青柳小学校「子どもの読書活動優秀実践学校の部 文部科学大臣表彰」
- 平成27(2015)年 ◎青柳小学校「第59回西日本読書感想画コンクール学校努力賞」
◎たけのこ文庫「子どもの読書活動優秀実践団体の部 文部科学大臣表彰」
◎古賀西小学校「子どもの読書活動優秀実践学校の部 文部科学大臣表彰」
- 平成28(2016)年 ●セカンドブック事業開始
- 平成29(2017)年 ■「古賀市子ども読書活動推進計画(第3次)」策定
- 平成30(2018)年 ◎古賀東小学校「子どもの読書活動優秀実践学校の部 文部科学大臣表彰」
◎たけのこ文庫「第48回野間読書推進賞」受賞
- 令和2(2020)年 ◎舞の里小学校「子どもの読書活動優秀実践学校の部 文部科学大臣表彰」
- 令和3(2021)年 ◎小野小学校「子どもの読書活動優秀実践学校の部 文部科学大臣表彰」
- 令和4(2022)年 ◎花鶴小学校「子どもの読書活動優秀実践学校の部 文部科学大臣表彰」

古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会要綱

平成28年3月31日
教育委員会告示第4号

(趣旨)

第1条 この要綱は、古賀市附属機関の設置等に関する条例(令和4年条例第1号)第6条の規定に基づき、古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会(以下「協議会」という。)の所掌事務、組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 協議会は、計画の策定に関することについて協議等を行い、教育委員会に意見を述べるものとする。

(組織)

第3条 協議会の委員は、次の各号に掲げるもののうちから、教育委員会が委嘱する。

- (1) 子どもの読書に関し識見を有する者
- (2) 関係団体を代表する者
- (3) 公募に応じた者
- (4) その他教育委員会が特に必要と認める者

(会長及び副会長)

第4条 協議会に、会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

- 2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

- 2 協議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席議員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 会長は、必要があると認めるときは、協議会の会議に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(書面による決議)

第6条 前条の規定にかかわらず、協議会は次の各号に掲げる事由に該当するときは、書面による決議を行うことができる。

- (1) 至急の決議が必要で協議会を開催する時間的余裕がないとき。
- (2) 事前に協議会において書面による決議の了承を受けているとき。

(ワーキンググループ)

第7条 計画の策定のため、協議会にワーキンググループを設置する。

- 2 ワーキンググループは、別表に掲げる課をもって構成する。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、教育部文化課において処理する。

(補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この告示は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(令和3年3月24日教委告示第2号)

この告示は、令和3年4月1日から施行する。

附 則(令和4年4月1日教委告示第3号)

この告示は、公布の日から施行する。

別表(第7条関係)(改正(令4教委告示第3号))

部	課名
保健福祉部	福祉課
	子育て支援課
教育部	学校教育課
	生涯学習推進課
	青少年育成課
	文化課



古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会委員名簿

氏 名	所 属 等
井 手 由紀子	古賀市保育所連盟(久保保育園園長)
亀 川 代志子	読書ボランティア(こじか文庫)
草 野 三保子	読書ボランティア(古賀子どもの本の交流会)
鈴 木 章	福岡教育大学 非常勤講師
園 久 恵	古賀市校長会(千鳥小学校校長)
村 山 美和子	古賀市社会教育委員の会議
森 中 祐美子	福岡県公立古賀竟成館高等学校
山 森 直 哉	福岡教育事務所 社会教育室 社会教育主事



古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会委員の皆さん

(参考)古賀市子ども読書活動推進計画策定にかかるワーキンググループ

部	課 名	係 名
保健福祉部	福祉課	障がい福祉係
	子育て支援課	子育て支援係
教育部	学校教育課	指導係
	生涯学習推進課	社会教育振興係
	青少年育成課	青少年育成係
	文化課	図書館係(事務局)

第4次古賀市子ども読書活動推進計画

子ども読書プラン

発行 令和4年10月

編集・発行 古賀市教育委員会

文化課図書館係(古賀市立図書館)

〒811-3103

福岡県古賀市中央二丁目13番1号

TEL 092-942-2561

FAX 092-944-0918



第4次古賀市子ども読書活動推進計画

子ども読書プラン